

●モノグラフ

小学生ナウ

Vol. 7-3

歴史上の人物

目次

要約	2
はじめに	4
1. 小学生の思い浮かべる歴史上の人物	6
● Best 10	6
● その人について	7
2. 歴史上の人物についての知識	11
● どのくらい知っているか	11
● どうして知ったか	16
3. 歴史上の人物に対する評価	20
● 世の中のためになったか	20
● 歴史に名前が残る条件	23
● 歴史上の人物の子どもの頃	25
4. 現存の人物に対する評価	28
● おとなになっても名前をおぼえている人	28
● どのくらい人気が続くか	31
5. 自分の生き方とのかかわりで	34
● 歴史に名前を残したいか	34
● 自己評価とのかかわり	40
まとめに代えて	45
子ども研究ノート ③ 父親	深谷昌志 46
資料1 調査票見本	52
資料2 学年・性別集計表	60

調査レポート／歴史上の人物

要約



①歴史上の人物Best10

小学生が思い浮かべる歴史上の人物は、徳川家康、聖徳太子、織田信長の順で、学年、男女を問わず、ほぼ共通している(表1)。



②その人を知ってから

歴史上の人物を知っても、「もっとくわしく知りたい」と思う程度で、「その人のような生き方を自分もしてみたい」とはあまり思わない(図4)。



③歴史上の人物についての知識

用意した40人の人物について、「名前だけは知っている」も合わせると、大半が知られており子どもたちの知識はきわめて豊富であると言える(図5、図6)。また、知識量においては、性差より学年差が顕著で、歴史学習の成果が感じられる(表2)。



④情報の入手源

「本で読んだ」が圧倒的で、特に、男子にその傾向が強く、「授業で知った」という女子と好対称を見せている(表4、表5)。

調査概要

1. 調査主題 歴史上の人物
2. 調査視点 現代の子どもたちにとって、その生き方の上で歴史上の人物がどのような意味を持っているか。
3. 調査項目 歴史上の人物とって思い浮かべる人/どのくらい知っているか/世の中のためになったと思うか/今活躍している人で、おとなになっても名前をおぼえている人/自分も歴史上に名前を残したいか、残せるか、など。

放送大学教授 深谷昌志

千葉市教育センター 上杉賢士

川
女

⑤ 歴史上の人物に対する評価

いずれの人物も、世の中をかなりよくしたと評価しているが、6年生ではその評価が幾分ダウンし、「伝記上の人物」から、客観的な「歴史上の人物」へと変質していく傾向がある(図9)。



く
主
ハ

⑥ 現存の人物への評価

スポーツ選手やタレントなど、比較的身近に感じられる人々については、「おとなになっても名前をおぼえているだろう」という(表6、表7、表8)。しかし、100年後というような長い時間的経過の中では、「たいていの人々が人々に忘れられていくだろう」と思っている(図18)。



ま
り
と
生
じ

⑦ 歴史に名前を残したいか

「できることならそうなりたい」という子どもが6割いる半面、「なれるかもしれない」と希望を抱く子どもは少ない(図20、図21、図22)。そして、また、そうした気持ちは自己像に強く影響されている(図26、図27、図28)。



り
寸

4. 調査時期 昭和61年12月
5. 調査対象 東京、千葉、静岡、山梨の小学5・6年生
6. 調査方法 学校通しによる質問紙調査

7. サンプル数 (人)

学年/性	男子	女子	計
5年	455	450	905
6年	450	438	888
計	905	888	1,793



はじめに

この原稿は昭和62年3月末に執筆しているが、NHKの大河ドラマ「独眼竜政宗」が驚異的な高視聴率を上げ、再び時代劇ブームが到来したといわれている。現代の渴いた世相の中では求めるべくもないロマンや爽快さがそこに感じられるからなのであろう。しかし、視聴率の何割かを支える人々に対しては、あるいはそれだけの意味にとどまらず、その生き方に共鳴させ、憧れにも似た感情を抱かせているのかもしれない。

時代を超え、現代の生き方にも共通する何かを語りかける——歴史上の人物は、いわば人々の心の中にすむヒーローであり、同一化の対象としての意味を持つものと思われる。

同一化の対象といった場合、一般には、「その人のようにになりたい」という感情を抱かせる人物のことであるといわれている。生き方に影響を及ぼし、自己形成に目標を与える——そうした存在に対して、人々は多くの場合、「尊敬」という感情を寄せていた。

それでは、現代の子どもたちの尊敬の対象がどうなっているか、まずそれを2年前に実施した調査の結果(『モノグラフ・小学生ナウ』Vol. 5-1〔ヒーロー〕より引用)から確かめておくことにしよう。

図の中でまず目につくのは、「両親」への圧倒的な支持率の高さであり、「伝記上の人物」はそれに次いで第3位に位置している。

両親といえば、子どもたちの極めて身近にいて間断なく子どもの生き方に影響を及ぼすはずの存在であるから、最上位に位置するのも不思議ではないのかもしれない。しかし、少なくとも我々がイメージしてきた「尊敬の対象」は、社会的にも認知された相当にビッグな存在であった。時代を超え、住んでいる世界を超えてもなお、人々の生き方に影響を与え続ける存在、それが「尊敬の対象」にはふさわしい条件でもあった。

考えてみれば、わが国の高度成長期にあって、マスコミュニケーションのネットワークが整備されつつあった時代には、力道山、王、長島、ピンクレディなど、何人ものスーパーヒーローが登場し、人々は熱いまなざしで彼らを見つめたものだった。しかし、経済的には「安定期」と見なされ、ネットワークが完備された現在においては、その生き方や人柄までをも含めたトータルな存在としてのヒーローは出現しにくくなっている。しばしば指摘されるように、テレビの普及以前の社会では、ラジオは音声を伴ったものの、顔や形は

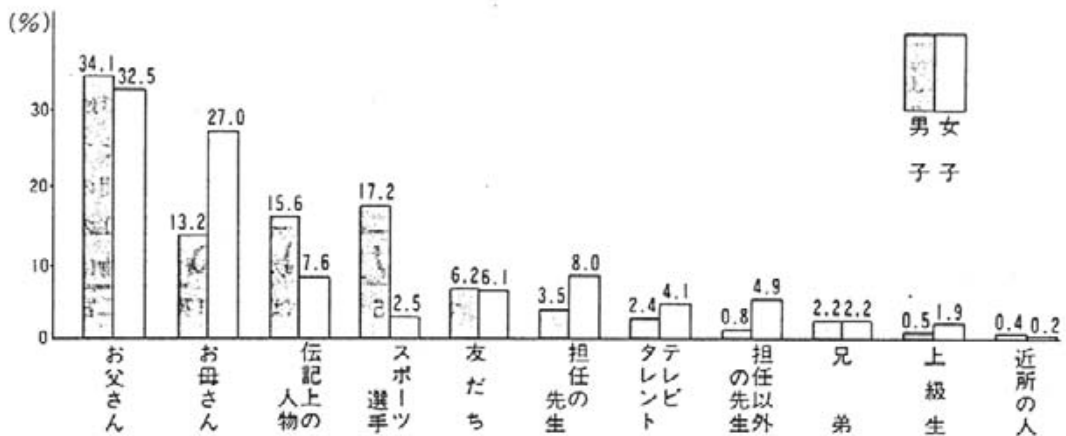
の
つ人
う。
に
す
の
、
の
ミッ
る
を
は

っ
ク
王、
マ
彼
に
完
柄
一
指
で
は

隠されていたし、映画は座席から上を仰いで見る対象であった。したがって、ヒーローになにかの神秘性が残されていた。しかしテレビは、くつろいだ形で茶の間にとびこんでくる。したがって子どもたちの視線は、いきおい身近な存在に向けられる。そこでは、「同一化の対象」とはいいながら、自分の大き

さとそれほどの隔たりのない、言い換えれば同一化の実現可能な範囲の「自分だけの小さなヒーロー」が求められているのかもしれない。本レポートでは、そうした事情を視野に入れながら、尊敬の対象として第3位にランクされた「歴史上の人物」と子どもたちのかかわりを明らかにしてみようとするものである。

参考図 尊敬する人物



—「モノグラフ・小学生ナウ」Vol. 5-1(ヒーロー)より—

1.小学生の思い浮かべる歴史上の人物



Best 10

早速、データの紹介に入りたい。

表1は、まず素朴に「歴史に出てくる人といえば、まず、どんな人を思い浮かべますか」という問いによって得られた結果である。回答は3名以内を記述させ、ここでは、各学年・性別に100名を無作為に抽出して集計した結果を掲げてある。したがって、全体では400サンプル中の選択数を表すことになる。

まず、小学生の思い浮かべる「歴史上の人物」の第1位は徳川家康で、400名中、247名が選択し、その選択率は61.8%である。これに次いで、聖徳太子の181名(45.3%)、織田信長の115名(28.8%)となっていて、ほぼ、この3人が「歴史上の人物」を代表する結果となっている。

本調査の実施時期は、昭和61年12月であっ

たので、調査対象のうち6年生は、平均的にはほぼ歴史の学習を終了している。そうした事情を反映して、5年生と6年生の間の「歴史上の人物」のイメージには、かなりの差が認められる。上位にランクされた人物は別格としても、5年生では、野口英世、二宮尊徳、水戸黄門など、伝記やテレビドラマでおなじみの顔がそれに次いで登場する。これに対して、6年生では福沢諭吉、伊藤博文など、歴史上に確かな足跡を残した人物があげられている。

それぞれのタイプの人物が、子どもたちの生き方に対してどういう意味を持つかは後の考察にゆずるとして、ここではそうした事実だけを読み取っておくことにしたい。

表1 小学生が思い浮かべる歴史上の人物 Best10

(人)

人物名	全体	5年男子	5年女子	6年男子	6年女子
1. 徳川家康	247	① 65	① 51	① 67	② 64
2. 聖徳太子	181	② 28	② 32	② 55	① 66
3. 織田信長	115	③ 26	④ 19	③ 30	③ 40
4. 豊臣秀吉	74	⑥ 11	⑥ 16	④ 22	④ 25
5. 夏目漱石	42	⑧ 10	⑥ 16	⑦ 8	⑥ 8
6. 野口英世	38	⑤ 12	③ 22	1	3
7. 二宮尊徳	37	⑥ 11	④ 19	4	3
8. 水戸黄門	36	④ 17	⑧ 15	3	1
9. 福沢諭吉	33	3	5	⑤ 12	⑤ 13
10. 伊藤博文	21	3	1	⑥ 9	⑥ 8

※ 3名以内という条件で記述させたものの中から、各学年・男女別に100名ずつ、計400名を任意に抽出して集計したもの

その人について

次に、徳川家康、聖徳太子などの著名な人物をイメージにおきながら、それらの人々を知った時期や知ってからの様子などについて確かめておこう。

まず、図1は、表1に示した人々の存在を知った時期についてである。全体としては、ほぼ「3、4年生」となっていて、性差もそれほどない。しかし、6年生においては、「6年生になってから」が29%となっていて、歴

史の学習を通して多くの人々を知ったことを示唆している。もちろん、歴史の学習ではじめて知ったというのではなく、それまで思い描いていた人物が、歴史学習で知った人物に置きかえられたことを意味するのであろう。たとえば、野口英世から福沢諭吉へというように。

そうした傾向を裏付けるように、次の図2では、「授業で知った」という6年生が27%

いるという結果が示されている。しかし、その6年生を加えながらも、歴史上の人物についての情報源は、やはり読書を通してであるようだ。

それでは、子どもたちはそれらの人物につ

いて、どのくらいわしく知っていると思っているのだろうか。次の図3で確かめてみよう。「くわしく知っている」と「だいたい知っている」を合わせた数値に注目していくと、「その人のしたこと」については、ほぼ8割

図1 その人をいつ頃知ったか

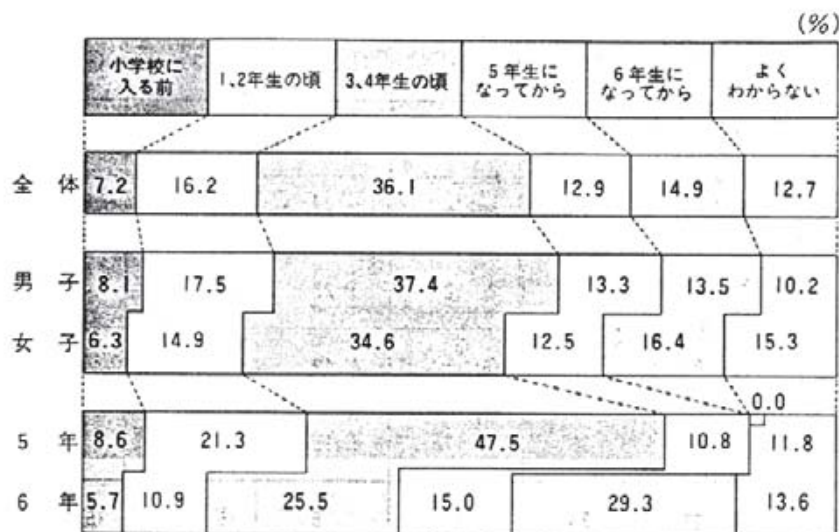
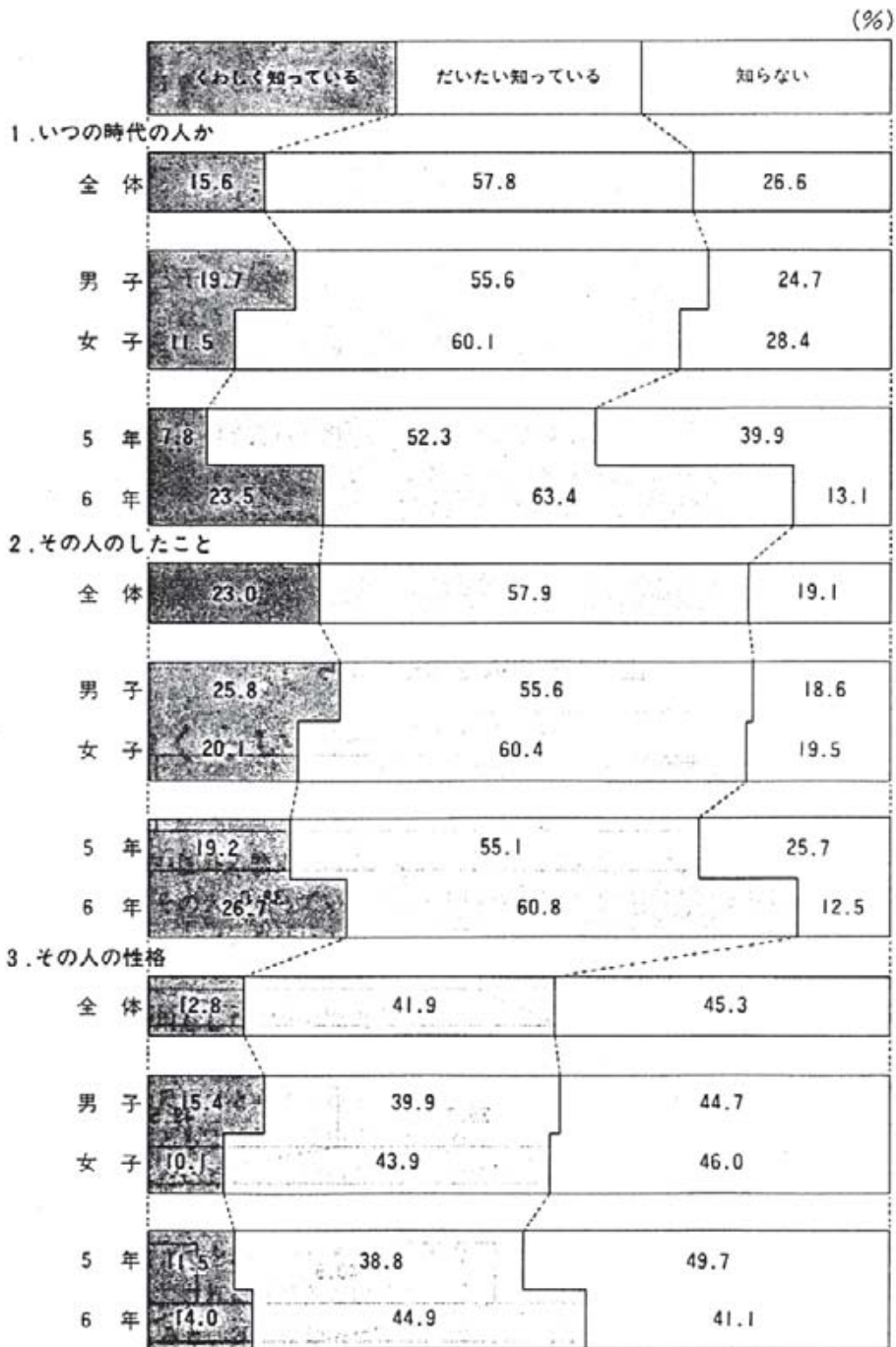


図2 その人を何で知ったか



図3 その人のことをどのくらい知っているか



が知っていると考えている。これに対して、「いつの時代の人か」については7割強、「その人の性格」はほぼ半数となっている。

その数値は、「子どもたちが思っている程度」を意味し、知識の正確さは示さない。したがって、かなり割引いて考える必要はあろうが、いずれにしても、名前と業績については知っているというものの、その人柄やトータルな人物像にまでは必ずしも子どもたちのイメージが及んでいないと考えてよいだろう。

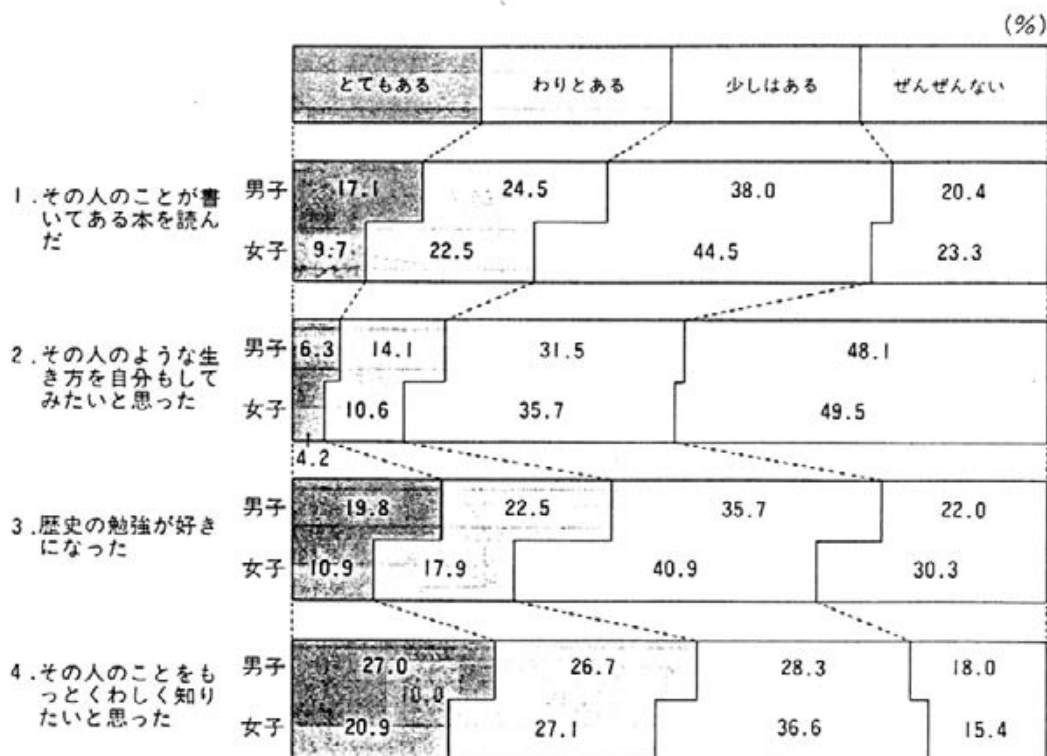
次に、歴史上の人物の存在が子どもたちの生き方に与える影響について見当をつけるために、図4を用意した。

ここでは、「その人を知ってからどんなことをしましたか」という問いへの結果をまとめて掲げている。「とてもある」と「わりと

ある」を合わせた数値に注目しても、「その人のことをもっとくわしく知りたいと思った」が約半数、そして、実際に「その人のことが書いてある本を読んだ」が4割弱という結果である。そして、「歴史の勉強が好きになった」子どもがほぼ3分の1いるというものの、「その人のような生き方を自分もしてみたいと思った」というほどに強烈なインパクトを感じている子どもは、2割にも満たない。

ここでは、歴史上の人物とってまず思い浮かべる人について、子どもたちの対応を確かめてきた。にもかかわらず、子どもたちの知識の世界の中では、ある程度の存在感が感じられるというものの、もう一步踏み込んで、同一化の対象というにはかなりの隔りがあった。そうした見当をつけながら、以下の分析を進めることにしよう。

図4 その人を知ってから



2. 歴史上の人物についての知識



どのくらい知っているか

ここでは、国内・国外の歴史上の人物各20人、計40人を掲げ、その人を知っている割合や知ったきっかけについて、量的にとらえてみたい。

まず、図5は用意した日本の歴史上の人物20人について、それぞれどのくらい知っているかを4段階の尺度でとらえた結果である。「名前もしたことよく知っている」と「名前もしたことだいたい知っている」を合わせた数値を「知っている」割合と考え、9位の福沢諭吉までを50%を超える子どもたちが知っている。これに「名前だけは知っている」層を加えると、20人中15人までが、それぞれの人物についての情報を得ている計算になり、子どもたちの知識量は相当に豊富であると言える。

この結果を、性別と学年別に表したのが、

次の表2である。表から読み取れるのは、性差がほとんどないのに対して、学年差が極めて顕著であるということである。5年生と6年生の間に差が小さい人物名を見ていくと、野口英世、滝廉太郎、二宮尊徳などとなっていて、少なくとも現在の歴史の教科書には登場してこない人物である。逆に差の大きい板垣退助、伊藤博文などを代表とする人物については、やはり歴史の授業を通して知識を得るのであろう。

子どもたちの歴史上の人物についての情報源として、歴史の授業の果たす役割の大きさを確認しながら、次に、一般には授業で取り上げられることの少ない外国の人物について知っている割合を、図6と表3で確かめてみよう。

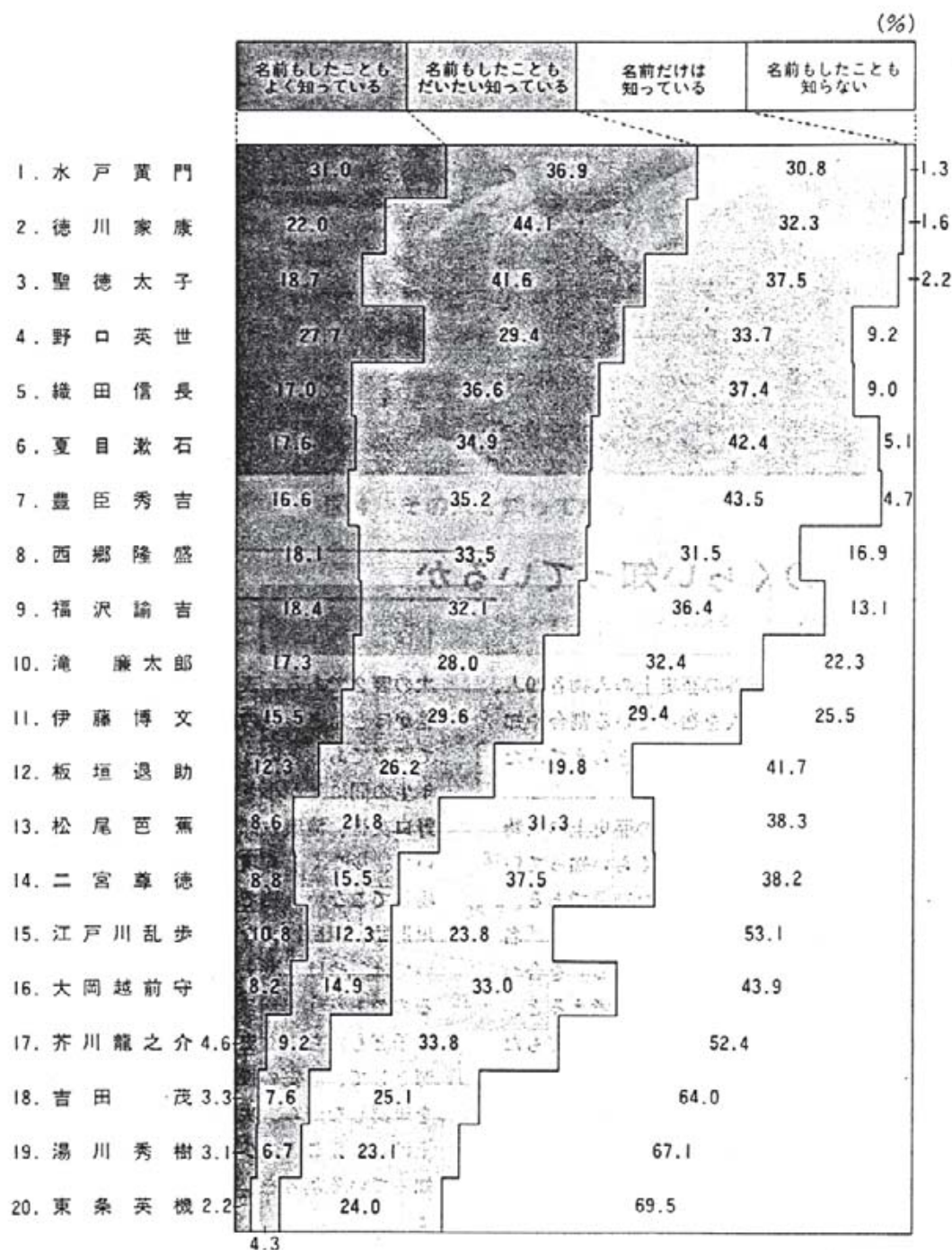
まず、図6では、日本の人物と同様に世界

の歴史上の人物についても、かなり豊かな知識をもっていることが読み取れる。ただ、20人中唯一の現存者、マザーテレサが最下位に

位置していることが目を引く。氏の活躍ぶりは、しばしばテレビや新聞などで取り上げられているにもかかわらず、「名前だけを知っ

て
知
れ
な
い

図5 どのくらい知っているか(1)



ている」者も含めて、2割程度の子どものしか知らないということが気になる。歴史上の人物についての知識量は豊富であるとは言え、

子どもたちの視野は案外狭いのかもしれない。世界の人物について知っている割合を、性別・学年別に示したのが、次の表3である。

表2 どのくらい知っているか(1)×性別・学年別

(%)

	性 別		学 年 別	
	男 子	女 子	5 年	6 年
1. 水戸黄門	70.6	65.2	77.0 >	58.5
2. 徳川家康	69.5	62.5	52.4 <	80.1
3. 聖徳太子	63.5	57.1	41.1 <<	80.1
4. 野口英世	56.8	57.5	60.9	53.3
5. 織田信長	59.3 >	47.9	32.0 <<	75.8
6. 夏目漱石	53.9	51.1	46.7 <	58.5
7. 豊臣秀吉	56.5	46.9	30.6 <<	73.5
8. 西郷隆盛	56.2	47.0	26.1 <<	77.7
9. 福沢諭吉	52.1	48.9	30.6 <<	71.1
10. 滝廉太郎	46.2	44.3	50.1	40.4
11. 伊藤博文	46.7	43.4	15.9 <<	75.1
12. 板垣退助	38.7	38.4	6.3 <<	71.7
13. 松尾芭蕉	32.3	28.6	11.3 <	50.1
14. 二宮尊徳	26.8	21.8	28.0	20.4
15. 江戸川乱歩	26.1	20.1	19.2	27.0
16. 大岡越前守	27.9	18.2	22.2	24.0
17. 芥川龍之介	15.0	12.6	10.5	17.3
18. 吉田 茂	13.9	7.8	5.5 <	16.3
19. 湯川 秀樹	12.7	7.0	8.7	11.0
20. 東条英機	9.1	4.0	6.0	7.2

名前もしたこともよく知っている 1
 名前もしたこともだいたい知っている 2
 名前だけは知っている 3
 名前もしたことも知らない 4

%

*不等号は、10%差につき1つをつけた

日本の人物とは対照的に、学年差はほとんどなく、性差が顕著である。女子のほうが知っている割合が高い人物は、ナイチンゲールと

キュリー夫人、そして男子では、ライト兄弟、ヒトラー、シートン、ファーブルなどとなっていて、ほぼ妥当な結果であると思われる。

図6 どのくらい知っているか(2)

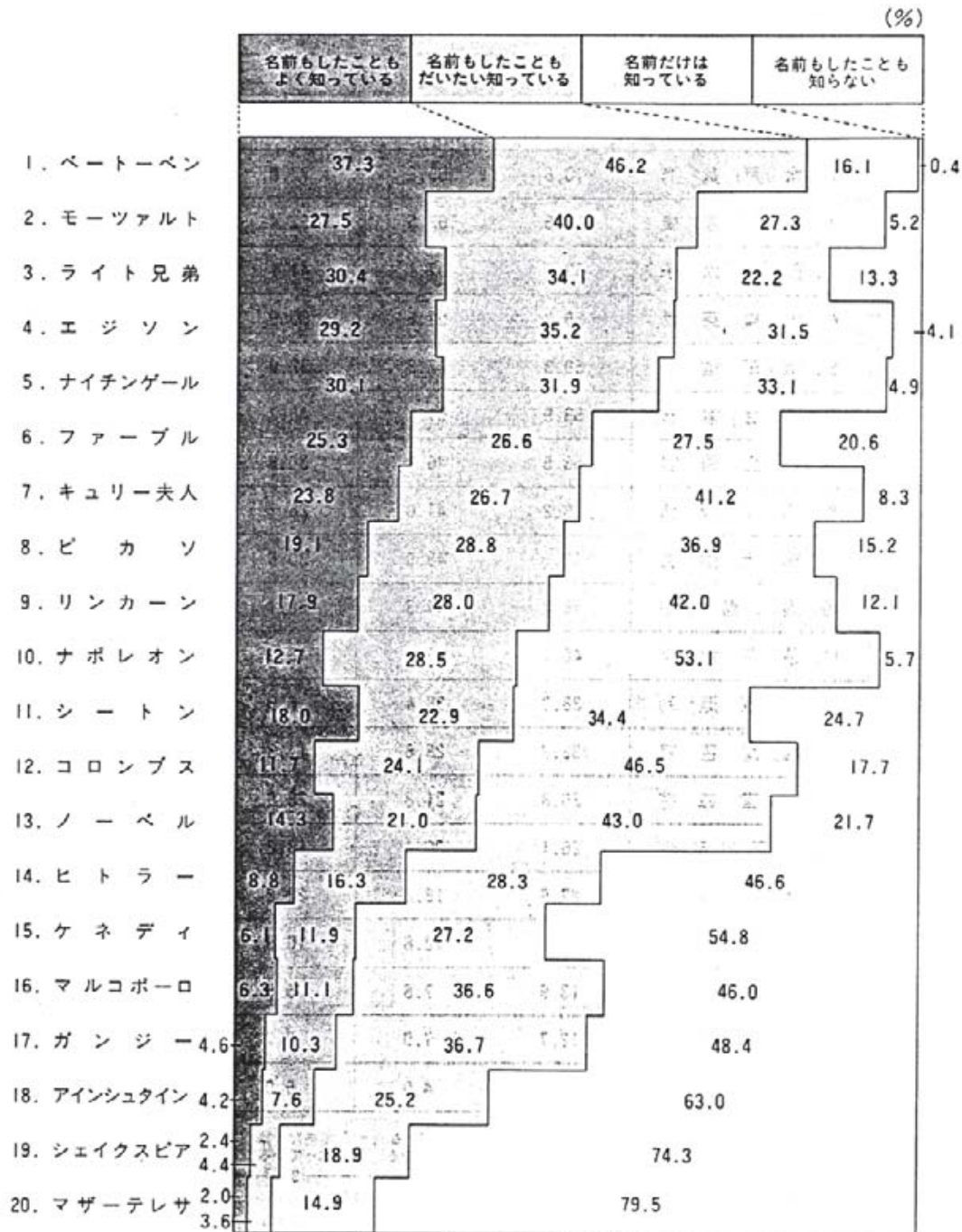


表3 どのくらい知っているか(2)×性別・学年別

(%)

	性別		学年別	
	男子	女子	5年	6年
1. ベートーベン	81.3	85.7	85.0	81.9
2. モーツァルト	61.8	< 73.2	67.7	67.3
3. ライト兄弟	72.9	> 55.9	63.3	65.6
4. エジソン	67.2	61.7	68.0	60.9
5. ナイチンゲール	49.1	< 75.1	61.0	63.1
6. フェーブル	57.0	> 46.9	53.3	50.7
7. キュリー夫人	39.5	< 61.6	47.3	53.7
8. ビカソ	47.6	48.0	43.7	52.1
9. リンカーン	47.7	44.0	45.4	46.4
10. ナポレオン	46.3	> 36.1	47.2	> 35.1
11. シートン	46.3	> 35.4	41.6	40.1
12. コロンブス	41.7	> 29.7	34.1	37.4
13. ノーベル	38.3	32.1	40.4	> 29.9
14. ヒトラー	33.7	> 16.4	21.0	29.2
15. ケネディ	21.1	14.9	14.5	21.6
16. マルコポーロ	19.8	14.9	20.0	14.6
17. ガンジー	18.9	10.8	13.8	15.9
18. アインシュタイン	16.0	7.8	11.4	12.3
19. シェイクスピア	6.0	7.5	6.6	6.9
20. マザーテレサ	4.7	6.4	5.8	5.3

名前もしたこともよく知っている 1
 名前もしたこともだいたい知っている 2
 名前だけは知っている 3
 名前もしたことも知らない 4
 %

*不等号は、10%差につき1つをつけた

どうして知ったか

それでは、国内・国外からそれぞれ10人ずつをピックアップし、それぞれの人物についてどうして知ったかを見てみよう。表4にその結果を掲げてある。

全体としては、「本で読んだ」割合が最も高い。それに続くのは、日本の人物については「授業で知った」、世界の人物は「何となく知った」という結果である。

この中から、「本で読んだ」割合だけを取り出し、5年生の性別に比較した結果が、次の図7である。

5年生といえば、歴史については未学習であり、歴史上の人物に関する情報源は伝記などの本が中心であることは、すでに第1章で読み取ってきた。図7でも、全体としてはかなり高い数値を示している、そうした傾向を裏づけているが、性差がかなり認められる。とりわけ、日本の人物においては男子のほうに圧倒的に高い数値を示している、両者の数値が接近しているのは野口英世ぐらいのものである。

この傾向は、図の下段、世界の人物の結果にも共通していて、ナイチンゲール、ベートーベンを除けば、やはり数パーセントから10

%前後の差が認められる。

一般的には、女子のほうが読書を好むと思われるが、おそらくその内容は物語が中心になっていて、伝記にふり向けられる量はかなり少ないのであろう。とすれば、女子の視野の狭さとその背後に垣間見える社会性の未発達さこそが問題になるのかもしれない。

次の表5には、6年生の結果を掲げてある。ここでは、「本で読んだ」と「授業で知った」の両者を比較して掲げたが、「本で読んだ」割合は、やはり男子のほうが高い。これに対して、「授業で知った」割合は女子に高く、両者の違いがはっきりしている。情報源としての授業のウェイトは女子のほうに高いのである。

以上、歴史上の人物についての知識の実態を、いくつかの角度から探ってきた。そこから浮かび上がってきた問題のひとつは、性差によって大きな差が認められたことであろう。そして、もうひとつは6年生の歴史学習を通して、「伝記の中の人物」が「歴史上の人物」へと変質していくことである。そうした意味あいも加えながら、以下のデータを見ていくことにする。

表4 どうして知ったか

(%)

	本で読んだ	テレビで 見た	授業で 知った	何となく	知らない
1. 徳川家康	(38.0)	18.4	26.0	15.9	1.7
2. 聖徳太子	(38.8)	9.2	23.3	26.2	2.5
3. 豊臣秀吉	(33.8)	10.7	30.8	17.9	6.8
4. 夏目漱石	(36.3)	18.9	9.6	28.1	7.1
5. 織田信長	(31.1)	13.2	30.1	15.1	10.5
6. 野口英世	(58.9)	6.5	6.0	17.1	11.5
7. 福沢諭吉	(33.0)	7.5	25.7	20.1	13.7
8. 松尾芭蕉	16.1	5.1	(22.3)	11.5	45.0
9. 大岡越前守	7.8	(32.6)	2.3	8.5	48.8
10. 湯川秀樹	(13.3)	2.1	3.0	10.9	70.7
1. ベートーベン	(47.9)	10.3	19.1	21.6	1.1
2. エジソン	(57.9)	7.0	2.9	24.6	7.6
3. ナイチンゲール	(60.3)	4.9	2.1	24.1	8.6
4. ナポレオン	(38.8)	10.8	4.7	33.9	11.8
5. リンカーン	(42.4)	4.9	3.5	30.3	18.9
6. ビカソ	17.9	21.5	1.4	(35.3)	23.9
7. ファーブル	(53.0)	2.5	2.2	17.5	24.8
8. コロンブス	(34.2)	7.0	1.5	29.2	28.1
9. ノーベル	(32.9)	4.8	1.9	29.2	31.2
10. ケネディ	13.8	6.1	1.4	(16.9)	61.8

○は最大値

図7 本で読んだ割合(5年生)

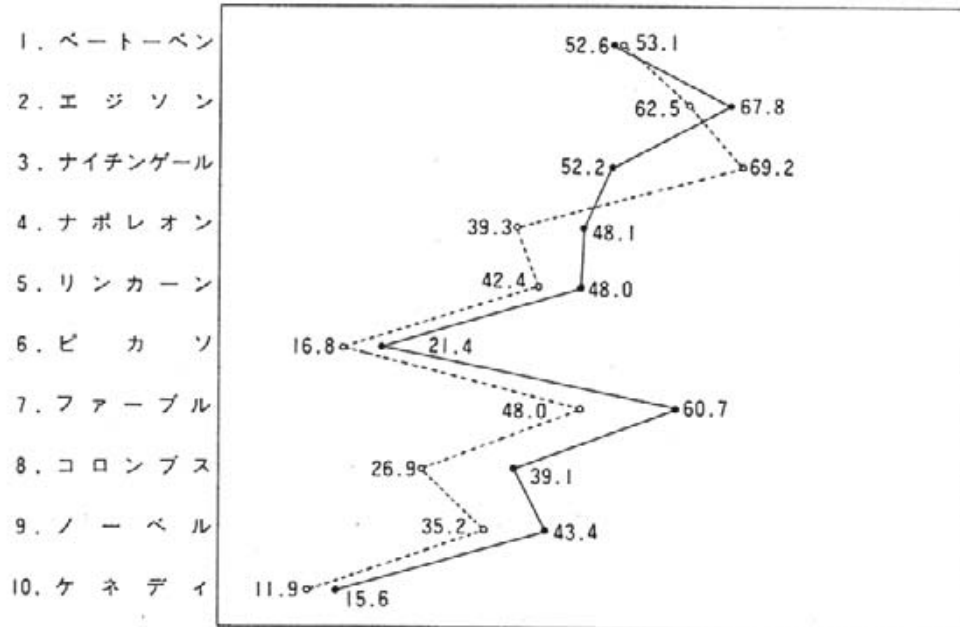
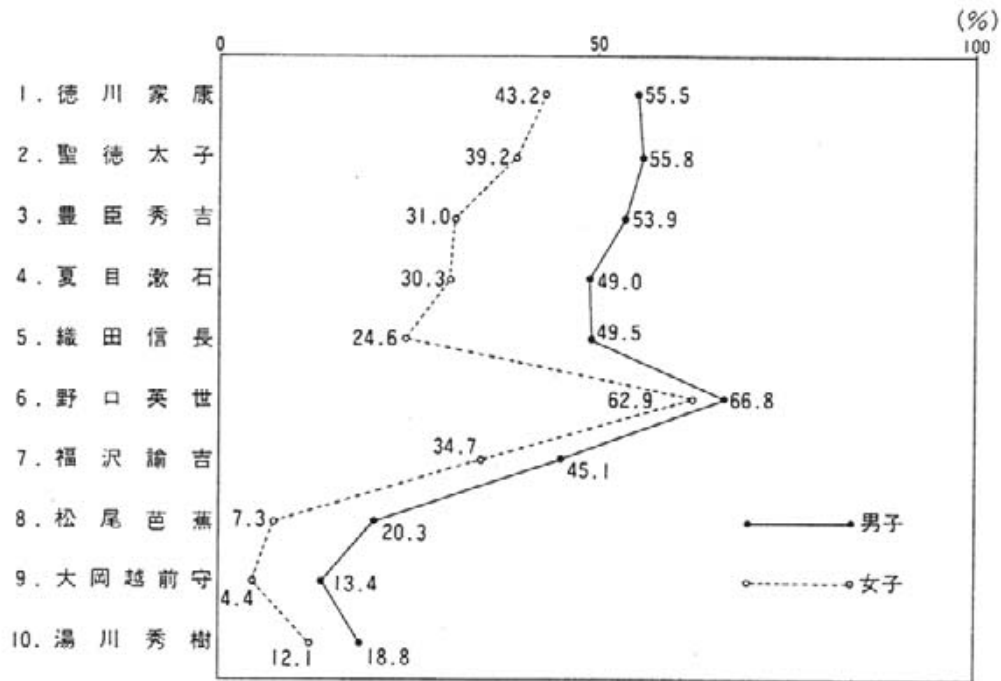


表5 「本で読んだ」と「授業で知った」の割合(6年生)

(%)

	本で読んだ		授業で知った	
	男子	女子	男子	女子
1. 徳川家康	31.9	> 20.5	45.4	< 55.5
2. 聖徳太子	33.8	> 26.0	41.6	< 51.8
3. 豊臣秀吉	30.8	> 18.9	52.1	< 69.4
4. 夏目漱石	37.2	> 28.3	17.0	20.3
5. 織田信長	32.2	> 17.4	52.1	< 69.4
6. 野口英世	52.9	52.8	10.0	10.8
7. 福沢諭吉	33.1	> 18.6	42.1	< 61.2
8. 松尾芭蕉	21.6	> 15.2	40.3	< 48.7
9. 大岡越前守	8.2	5.1	4.9	3.9
10. 湯川秀樹	14.0	> 8.3	5.8	4.6
1. ベートーベン	40.4	45.3	19.7	16.9
2. エジソン	52.3	48.6	2.0	2.1
3. ナイチンゲール	48.3	< 72.0	2.4	2.5
4. ナポレオン	37.3	> 30.1	2.9	2.3
5. リンカーン	39.2	39.9	4.0	2.5
6. ビカソ	20.0	> 13.4	1.1	0.5
7. ファーブル	57.2	> 45.9	2.2	1.6
8. コロンブス	41.4	> 29.2	1.0	0.3
9. ノーベル	30.1	> 22.5	2.0	0.7
10. ケネディ	18.3	> 9.2	1.8	2.1

*不等号は、5%以上の差がある場合のみつけた

3. 歴史上の人物に対する評価



世の中のためになったか

一口に歴史上の人物といっても、さまざまである。そして、歴史上に残る名前の重さとその人の業績は必ずしも一致しないし、その人物に対する評価も一定ではない。例えば、『落日の王子・蘇我入鹿』（黒岩重吾・文春文庫 182-19）によると、専横をきわめたため、大化の改新において中大兄皇子らに倒された人物であるとされていた蘇我入鹿が、唐の国家制度を学び、その実現に情熱を燃やしたというロマンにあふれる人物像として描かれている。また、一般的な歴史解釈の中では、悪者視されている人物ではあっても、その地元では今でも歴史上の偉人として熱烈に支持されている例も決して稀ではない。さらに、今後新たな歴史解釈が提出されれば、現在のところでは「定説」とされていることが覆される可能性がまったくないわけではない。歴

史上の人物に対する評価は、そうした事情を考慮した上で、より柔軟であることが望ましいとされている。

それでは、現代の子どもたちが下す歴史上の人物への評価はどうなっているのでしょうか。まず、ここでは、日本の歴史上に残る10人の人物に対して、「世の中をよくするのに役立ったか」という問いによって得られた結果から見ていくことにしよう。図8に、その結果を掲げてある。

提示した10人の中で、まず世の中に最も貢献した人物として第1位にランクされたのは聖徳太子。次いで、徳川家康、野口英世という結果である。

この中から「その人を知らない」という層を除き、学年別に集計し直した結果が、次の図9である。ここでは、5年生の評価が高い

順に人物名を並べてあるが、全体としては5年生のほうが高い数値を示しており、6年生ではシビアな評価が進行していることがわかる。特に差の大きい人物名に注目すると、野口英世、夏目漱石、湯川秀樹、松尾芭蕉などとなっていて、いずれも医学や文学など限定された分野で活躍した人々である。6年生の評価が、政治という舞台でより広範な人々に影響を与えた人物に集中していると読み取っていいかもしれない。それでもなお、聖徳太子を除けば、いずれも評価が数パーセントダ

ウンしている。再び図8にもどれば、徳川家康、豊臣秀吉、織田信長の3人については、「世の中をむしろ悪くした」と見る層が6～8%存在する。彼らの業績が天下の統一という壮大なものであった一方で、必ずしも庶民の暮らしぶりが平和で満ち足りたものではなかったという歴史的事実に、6年生が気づき始めた結果なのであろう。多くの歴史的事実を知ること、歴史上の人物に対する評価は、幾分目減りする、こうした結果に注目しておきたい。

図8 世の中をよくするのに役立ったか

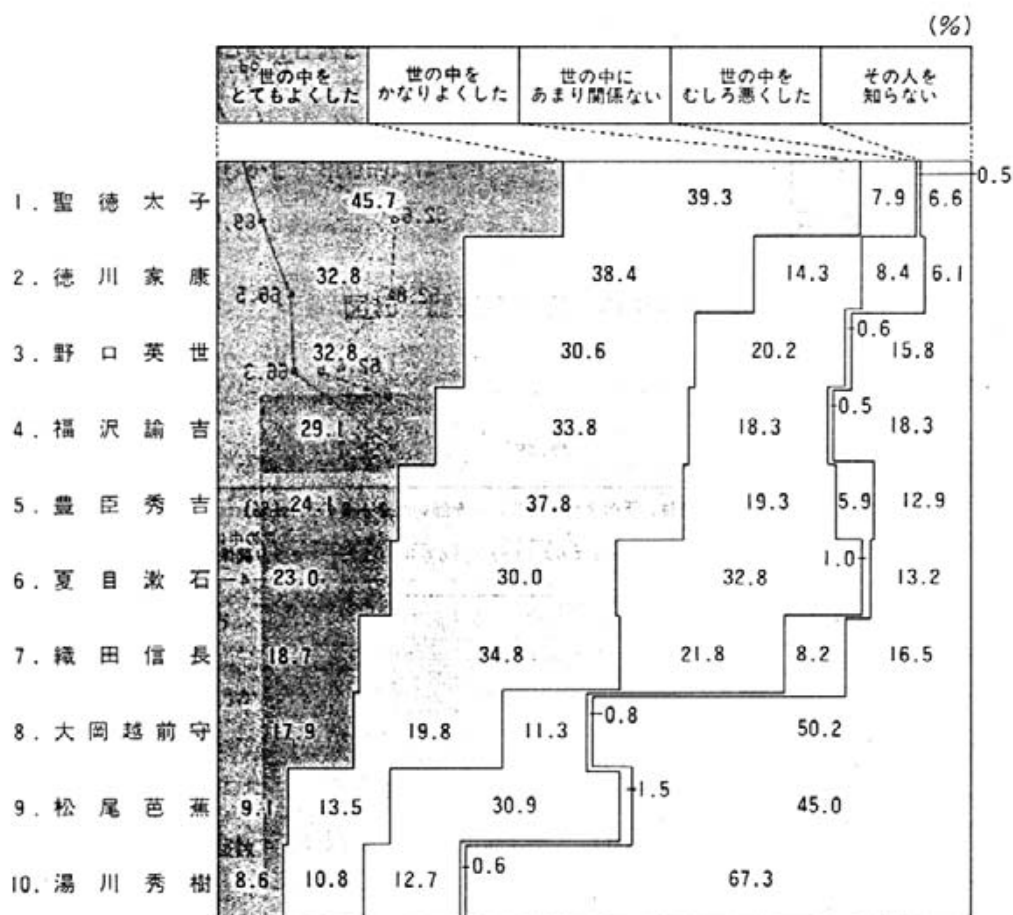
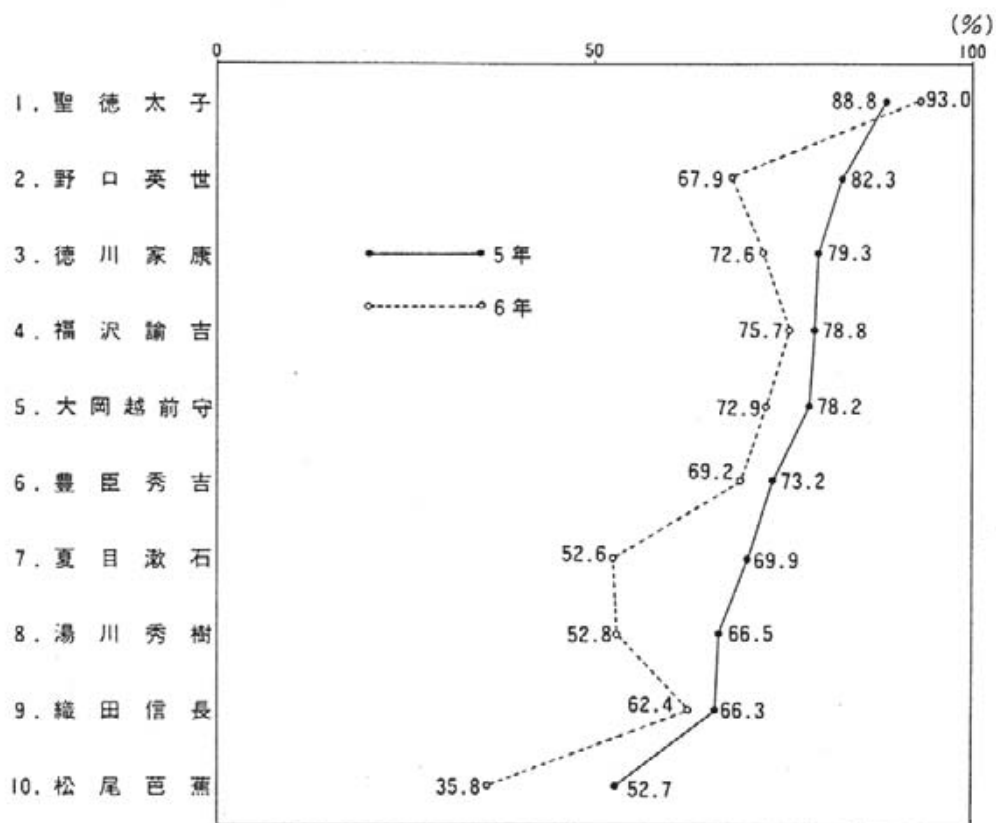
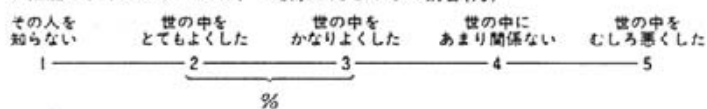


図9 世の中をよくするのに役立ったか×学年



*数値は、下のスケールで、1を除いた2+3の割合(%)



歴史に名前が残る条件

次に、歴史上の人物として名前を残すためには、どんなことが必要であると子どもたちは思っているのだろうか。

用意した5項目について、それぞれどのくらい大切かをたずねた結果が図10である。図から読み取れることは、「がんばり」や「人からの評価」「業績の大きさ」などはある程度大切であるが、「運のよさ」や「本やテレビに出る回数」はそれほど必要ではないという、好意的な解釈である。

次の図11は、性別に集計し直した結果であるが、上位2項目では女子の支持率が高く、下位の3項目では男子のほうが高いという傾向が示されている。しかし、相対的にはそう

した差が認められるとはいえないものの、歴史に名前を残す条件としての5項目の序列を変更するほどの差はない。次の図12では、学年差がほとんどないことが示されている。

調査票作成の段階では、下位の2項目、すなわち「運のよさ」や「本やテレビに出る回数」の支持率がもう少し高く、歴史上の人物に対する子どもたちの評価が、多少屈折しているのではないかと予想していた。その意味では、その人柄や業績の大きさをダイレクトに注目していたという事実は特筆に値する。とすれば、自らにそれほどの自信を持っていないという傾向にある現代の子どもたちと、歴史上の人物との距離は一層広がってこよう。

図10 歴史に名前が残る条件

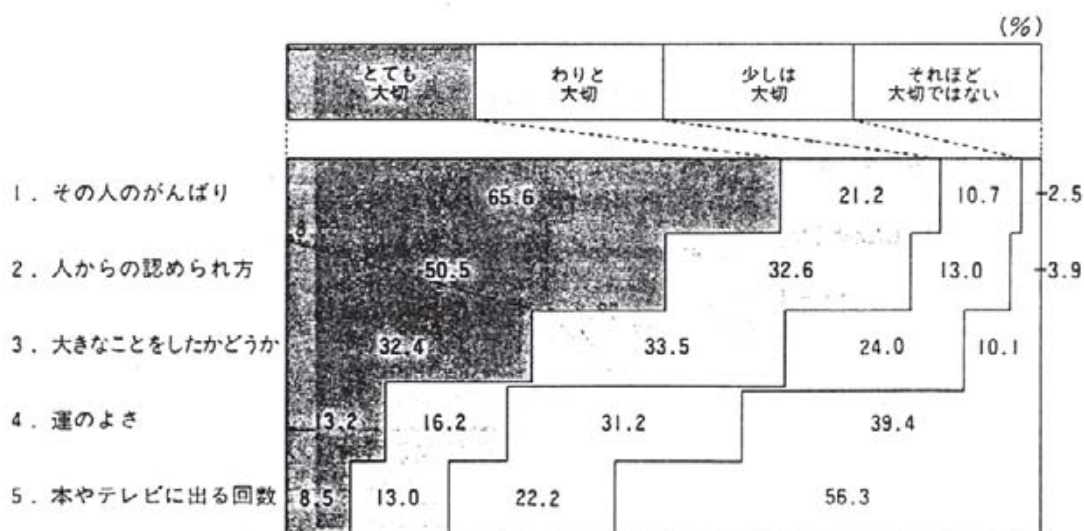


図11 歴史に名前が残る条件×性別

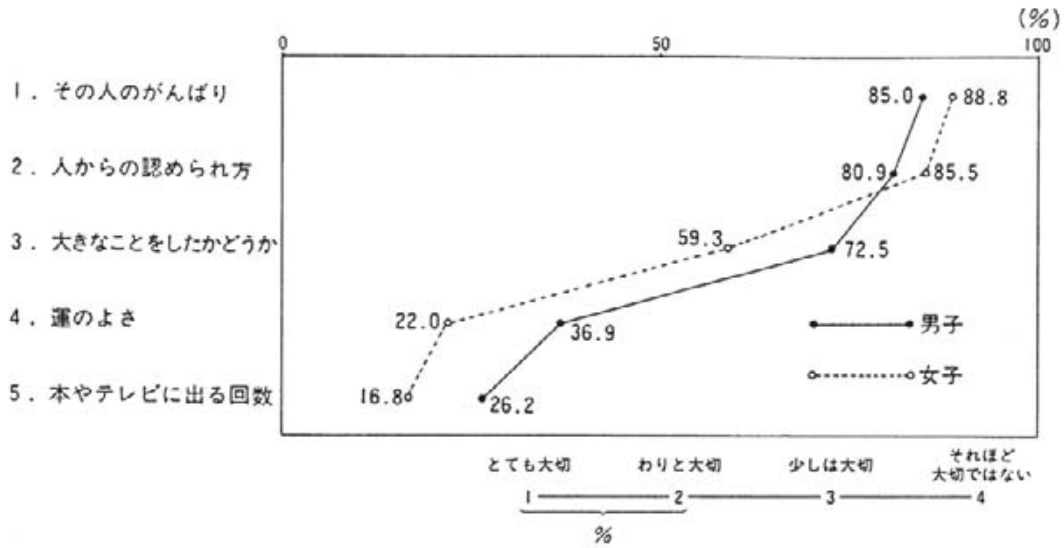
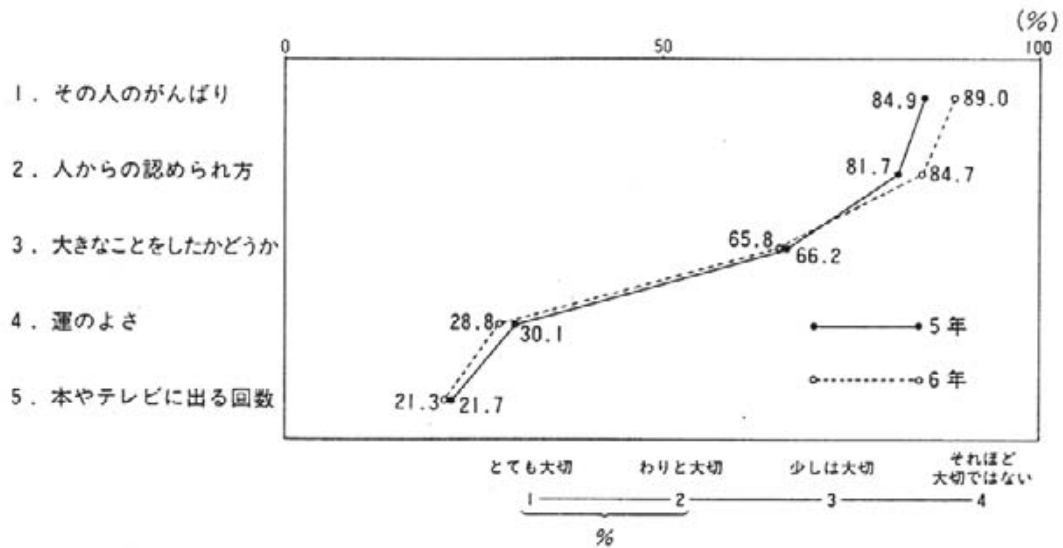


図12 歴史に名前が残る条件×学年



歴史上の人物の子どもの頃

本章の最後に、例えば聖徳太子や徳川家康といった歴史上の人物が、どんな子どもであったかを想像させた結果を紹介しよう。

図13には、その点についての単純集計の結果を掲げてある。図からは、決して「明るくひょうきん」ではなく、「しっかりしていてねばり強い」という存在感のある子ども像を想像していることが読み取れる。そして、学

年別に整理した次の図14では、そうした方向での想像が、特に6年生において顕著であるという結果が示されている。

現在の子どもの「軽き志向」が指摘される（第45回日本教育学会において筆者らが発表）中で、あるいはその対極にあって、重くハードな子ども像が歴史上の人物に求められているのかもしれない。

図13 歴史に名前が残る人の子どもの頃

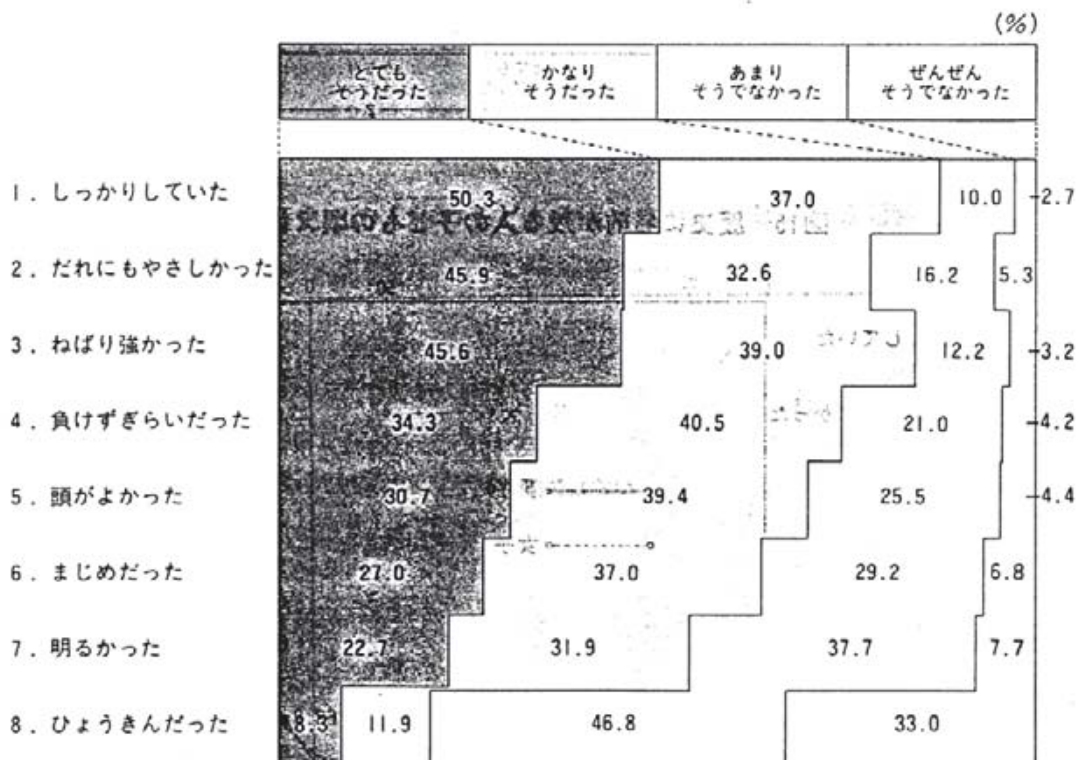


図14 歴史に名前が残る人の子どもの頃×学年

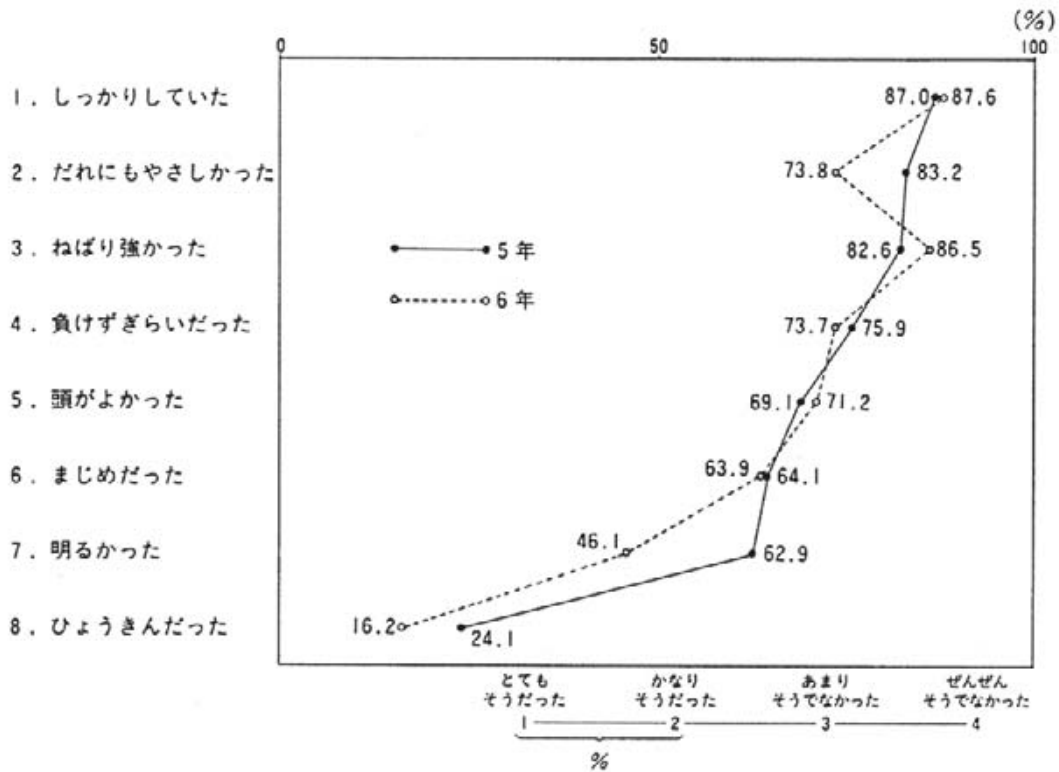


図15 歴史に名前が残る人の子どもの頃×性別

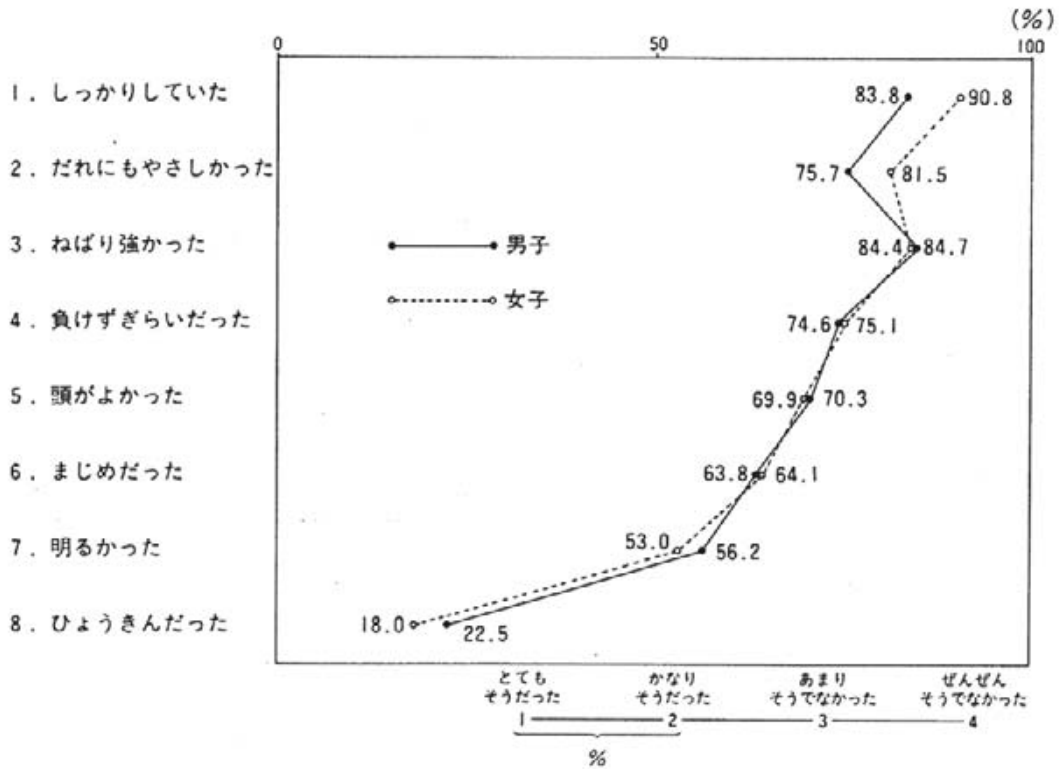


図16 歴史上の人物の子どもの頃×その人のがんばり

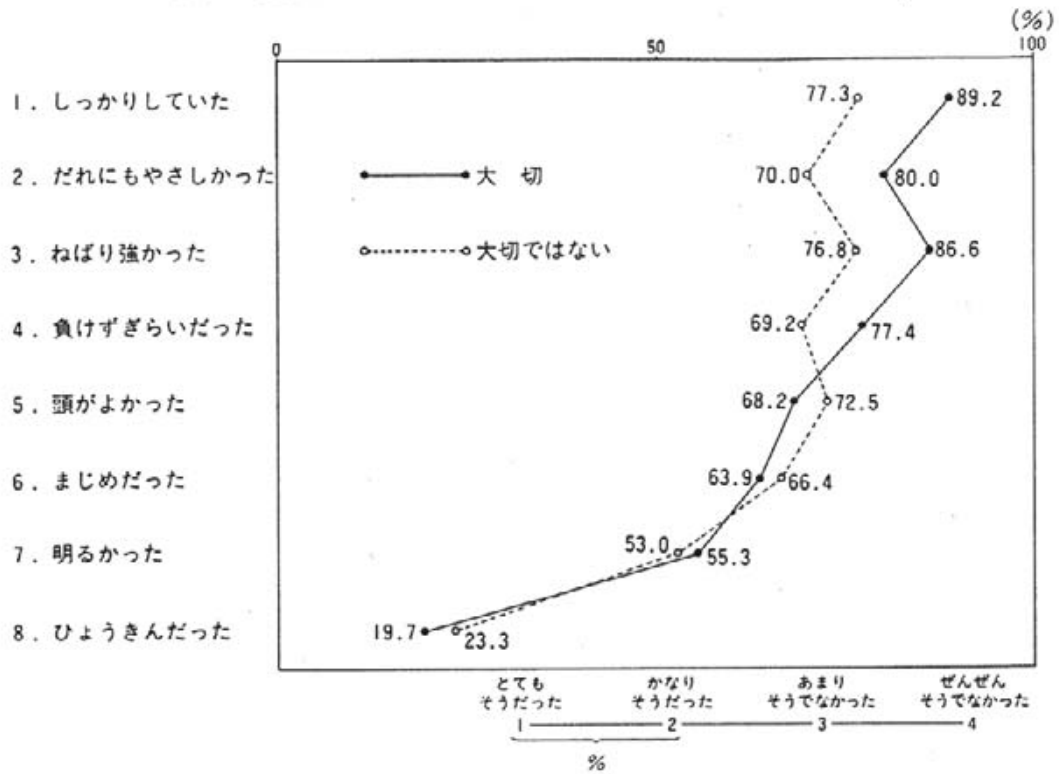
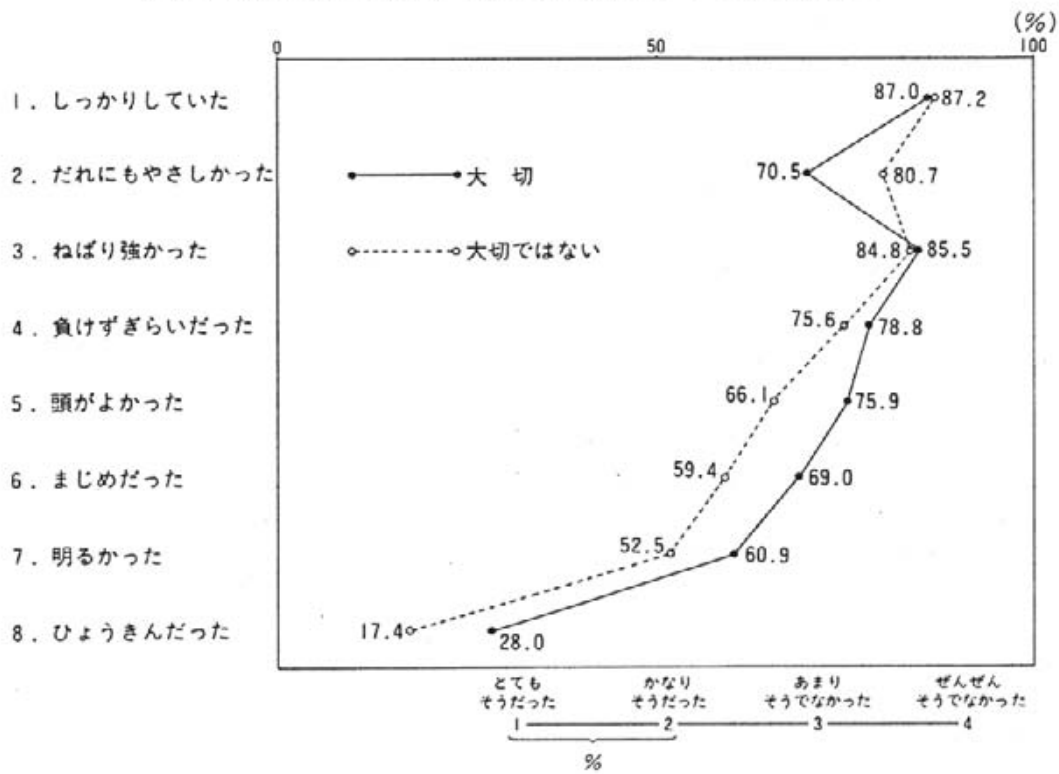


図17 歴史上の人物の子どもの頃×本やテレビに出る回数



4. 現存の人物に対する評価



おとなになっても名前をおぼえている人

こちらで少し目先を変えて、現存する人物に対する子どもたちの評価を見てみよう。以下、現存する人物の活躍が、歴史という尺度でとらえたとき、どのくらいの重さを感じさせるかという視点からの子どもたちの評価の結果である。

表6から表8にかけて、「今、活躍している人の中でおとなになっても名前をおぼえていると思う人」の名前を、ジャンル別に自由記述させた結果を掲げた。「今、活躍している人」という条件をつけたにもかかわらず、特に表8には、すでに「歴史上の人物」になっている人物もかなり登場してくる。それだけ、現存する人物の活躍が子どもたちの視野に入っていないという事実を示すのであろうが、ここではひとまず、記述された人物の名前をそのまま集計しておいた。

まず、表6に掲げた「スポーツ選手」についてである。プロ野球の新人選手としての全ての記録を塗りかえ、人々に強烈な印象を与えたプロ野球西武ライオンズの清原和博が、第1位。次いで、ロサンゼルスオリンピックのヒーロー、カールルイスが第2位。以下、男女ともプロ野球選手がこれに続き、マラソンの瀬古利彦も登場してくる。これらの人々にまぎって、男子では、サッカーワールドカップで活躍したマラドーナとブラティニ、女子では新体操の新しい女王・秋山エリカ、さらに人気沸騰の男子バレーボール界から、川合俊一と熊田康則の2人が加わる。歴史上の足跡の大きさというよりむしろ、これは、現在、人々に与えるインパクトの強さ、あるいはもっと単純に好きなスポーツ選手といった趣がないわけではない。

そうした傾向は、次の表7における「タレント」の結果では、一層鮮明になる。ただし、本調査後、ビートたけしらによる例の写真週刊誌記者暴行事件が起きた。テレビ局などのその後の対応によれば、「たけし人気」もこれまでという気配があり、何とも皮肉な結果となった。いずれにしても、調査時期が昭和61年12月という限定つきで、この2つのデータはながめる必要がある。

次の表8にまとめた4つのジャンルにおい

ては、すでに述べたように、現存の人物の出現率はきわめて低い。現存の人物に限定してピックアップすれば、「画家や彫刻家」の岡本太郎、「小説家や詩人」の赤川次郎、そして「政治家」の中曽根首相らが、辛うじて多少時間が経過しても人々に名前をおぼえられている人物となる。なお、アキノ大統領、土井たか子社会党委員長らの名前が登場しているのも、あるいは調査時期と深いかわりがあるのかもしれない。

表6 おとなになっても名前をおぼえているスポーツ選手

(人)

男 子	200名中	女 子	200名中
1. 清原和博	52	1. カールルイス	37
2. カールルイス	42	2. 清原和博	28
3. マラドーナ	37	3. 江川卓	17
4. 王貞治	30	3. 瀬古利彦	17
5. 原辰徳	25	5. 王貞治	15
6. 江川卓	22	6. 桑田真澄	12
7. ランディ・バース	17	7. 原辰徳	10
8. 瀬古利彦	14	8. 秋山エリカ	9
9. 長島茂雄	11	8. 川合俊一	9
10. プラティニ	8	10. 熊田康則	7

※3名以内という条件で記述させたものの中から、各学年・男女別に100名ずつ、計400名を任意に抽出して集計したもの。以下の表7、表8も同じ

表7 おとなになっても名前をおぼえているタレント

(人)

男 子	200名中	女 子	200名中
1. ビートたけし	86	1. 中 森 明 菜	88
2. 明石家さんま	40	2. ビートたけし	39
3. 中 森 明 菜	14	3. 明石家さんま	31
4. 少 年 隊	12	4. 中 山 美 穂	26
5. とんねるず	11	5. 小 泉 今日子	25
6. 志 村 け ん	10	6. 松 田 聖 子	19
7. チェッカーズ	9	7. 少 年 隊	13
8. 近 藤 真 彦	8	8. おニャン子クラブ	10
8. 加 藤 茶	8	9. チェッカーズ	9
10. C - C - B	7	10. 国 生 さゆり	7

表8 おとなになっても名前をおぼえている著名人

(人)

画家や彫刻家	
1. ビカソ	102
2. 岡本太郎	48
3. ゴッホ	12
4. ミレー	8
5. ロダン	7

小説家や詩人	
1. 赤川次郎	55
2. 夏目漱石	29
3. 松尾芭蕉	26
4. 宮沢賢治	18
5. 江戸川乱歩	17

政治家	
1. 中曽根康弘	108
2. レーガン	73
3. 田中角栄	16
4. アキノ	14
5. 土井たか子	13

音楽家	
1. ベートーベン	179
2. モーツァルト	87
3. バッハ	62
4. シューベルト	31
5. 滝廉太郎	22

どのくらい人気が続くか

それでは、ここまで名前があがった現存の人物についての今後を占う意味で、「どのくらい人気が続くか」という問いによって得られた結果を紹介しよう。

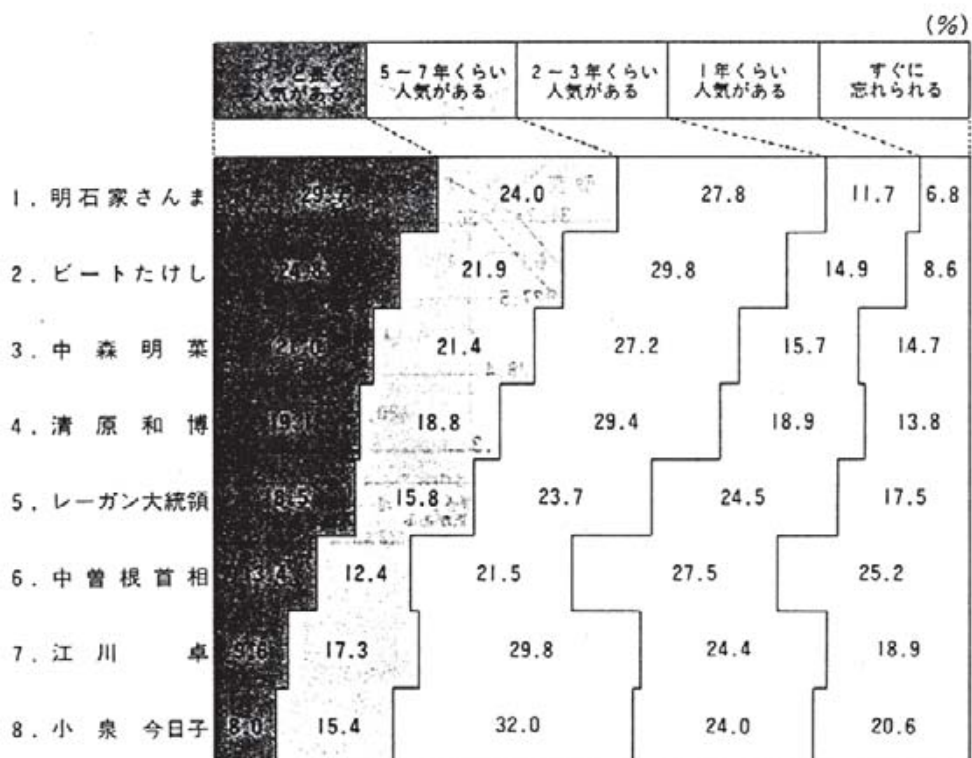
図18はあらかじめ用意した8人について、それぞれ人気がどのくらい続くかを予測させた結果である。第1位にランクされた明石家さんまでも、「ずっと長く人気がある」とする子は3割で、7割の子どもたちは、「人気が続くのは、せいぜい数年である」とシビア

な予測をたてている。

次の図19では、性別の結果を掲げたが、中森明菜や清原和博において差が顕著であるとはいうものの、次の世代にまで人気を引き継がれると思われるスターは、ほとんどいないだろうと思われる。

以上にあげたスターたちは、いずれも現在活躍中ではあるが、将来については未知数の部分が多い。したがって、「ずっと長く人気がある」と断定するだけの材料に乏しいので

図18 どのくらい人気が続くか



あろう。

そこで思い切って、「100年後にも名前をおぼえられているだろうと思う人」をあげてもらった。その結果が、次の表9である。

さすがに、このところ監督としての評価は芳しくないものの、過去に前人未達のホームラン記録を残した、プロ野球巨人軍の王監督が第1位にランクされている。前章でみてきたように、歴史に名前が残る条件として、「がんばり」や「人々からの評価」さらに「業

績の大きさ」に注目していけば、現存の人物の中では王監督が最もその条件にあてはまるのかもしれない。

しかし、それでも400人中の34人があげているだけで、選択率にして8.5%にすぎない。とてつもなく長い歴史の中の一断面にすぎない現在において、後世に名前を語り継がれるほどに、その存在の重さを感じさせる人物は、ほとんどいないと子どもたちは思っているであろうか。

図19 どのくらい人気が続くか×性別

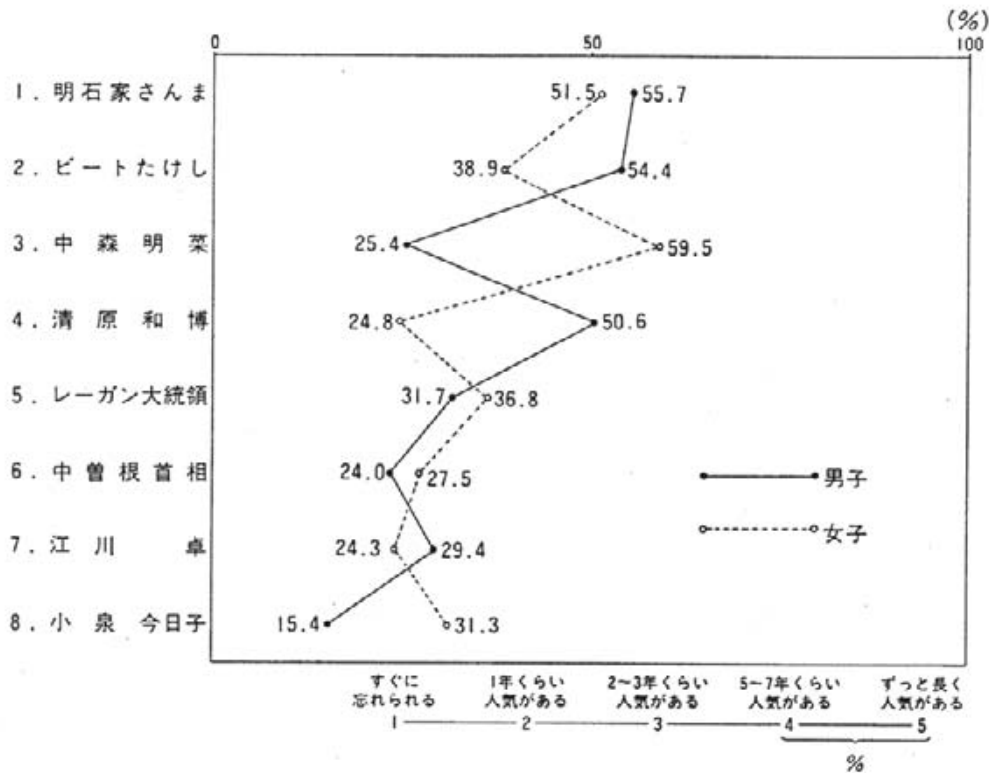


表9 100年後にも名前をおぼえられているだろうと思う人

(人)

順位	全 体	5年男子	5年女子	6年男子	6年女子
1	王 貞 治 34	王 貞 治 21	中曾根康弘 10	ビートたけし 10	中曾根康弘 8
2	中曾根康弘 33	ビートたけし 11	中 森 明 菜 6	王 貞 治 9	中 森 明 菜 7
3	ビートたけし 30	清 原 和 博 7	ビートたけし 4	中曾根康弘 8	ビートたけし 5
4	レ ー ガ ン 17	中曾根康弘 7	レ ー ガ ン 4	清 原 和 博 8	明石家さんま 5
5	清 原 和 博 16	マラドーナ 6	明石家さんま 3	マラドーナ 4	中山美穂 4
6	中 森 明 菜 14	長 島 茂 雄 6	王 貞 治 3	レ ー ガ ン 3	レ ー ガ ン 4
7	明石家さんま 13	レ ー ガ ン 6	志 村 け ん 2	カールルイス 3	天 皇 4
8	マラドーナ 11	落合博満 5	瀬古利彦 2	天 皇 3	西川きよし 3
9	長 島 茂 雄 8	明石家さんま 3	中山美穂 2	落合博満 2	岡本太郎 3
10	天 皇 7	原 辰 徳 3	西川きよし 2	明石家さんま 2	松田聖子 3
記述された延べ人数		63人	49人	74人	67人
記 述 率		21.0%	16.3%	24.7%	22.3%

※ 3名以内という条件で記述させたものの中から、各学年・男女別に100名ずつ、計400名を任意に抽出して集計したもの

※ 記述率は、300(3名以内×100人)で、延べ人数をわったもの

5. 自分の生き方とのかかわりで



歴史に名前を残したいか

本レポートのまとめとして、歴史上の人物が、子どもたちの生き方に及ぼす影響について確かめてみることにしよう。

まず図20には、端的に「歴史に名前が残る人になりたいか」とたずねた結果を掲げている。結果は意外にも、64%と半数を超える子どもたちが、「ぜひ・できたらなってみよう」と前向きな対応を示している。そして、特に男子においてその傾向が顕著である。

それでは、「歴史に名前が残る人になれるか」とたずねた結果（図21）からは、当然のこととはいえ、7割の子どもは「たぶん・ぜったいなれない」と断念率の高さも同時に示している。

この2つの結果をクロスさせたものが、次の図22である。さすがに、「ぜひになりたい」という層の半数以上は、「なれるかもしれな

い」と希望を抱く一方で、「ぜんぜんなりたくない」という子どもの95%は、「たぶん・ぜったいなれない」と、すでにおり始めている。

それでは、具体的に子どもたちはどんな人物のようになりたいと考えているのであろうか。図23は、用意した20人の歴史上の人物に対して、「その人のようにどのくらいになりたいか」をたずねた結果である。

それによると、聖徳太子が61%で第1位。以下、夏目漱石、徳川家康、福沢諭吉、外国の人物では、エジソン、ナイチンゲールなどが4割を超えている。実現の可能性は別としても、こうした人物にあこがれ、自分もそうなりたいと願うのは、子どもたちにとって悪いことではない。ただし、こうして具体的な人物名をあげると、そこには性差や学年差が

図20 歴史に名前が残る人になりたいか

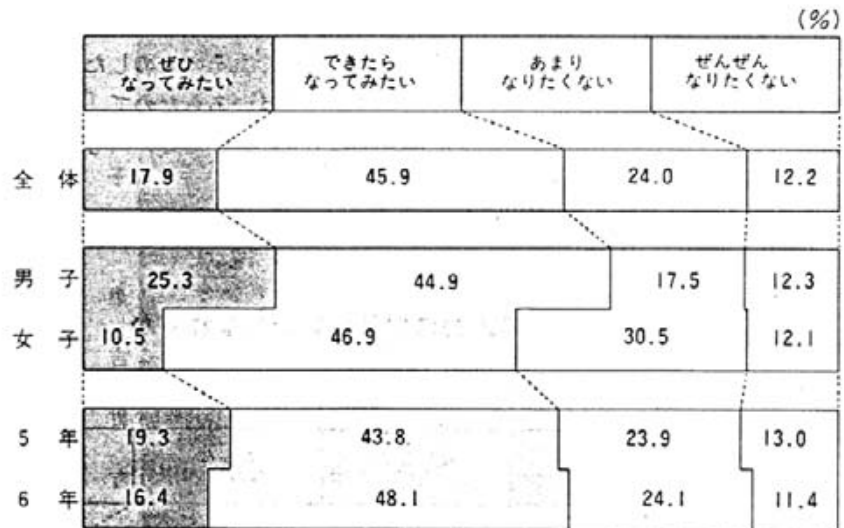
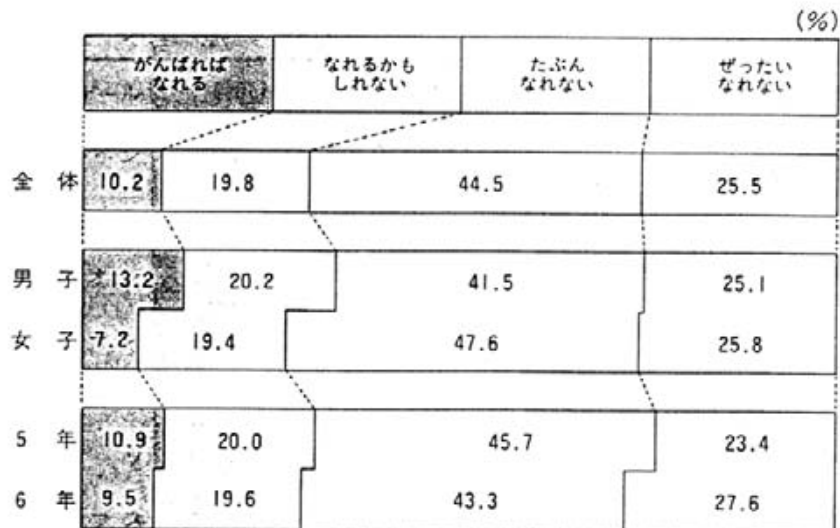


図21 歴史に名前が残る人になれるか



予想される。そこで、第3章で用いたのと同様に、「その人を知らない」という層を除いた割合を、学年別・性別に集計し直してみた。

まず、図24は男子の結果を学年別に示したものである。日本の人物については大きな変動はないものの、外国の人物では、ファール、ノーベルなどが上位に位置してくる。しかし、全体としては、5年生のほうが「なりたい」とする割合が高く、学年が上がるにつ

れて、「なりたくない」という子の割合が高くなる傾向が示されている。

この傾向は、女子の結果を掲げた図25にもほぼ引き継がれている。しかし、福沢諭吉や松尾芭蕉については、6年生のほうがむしろ数値が高く、その人のしたことや業績の内容によっては、あらためて「なりたい」という気持ちを増幅させる傾向も読み取れる。

図22 歴史上の人物になりたいか×なれるか

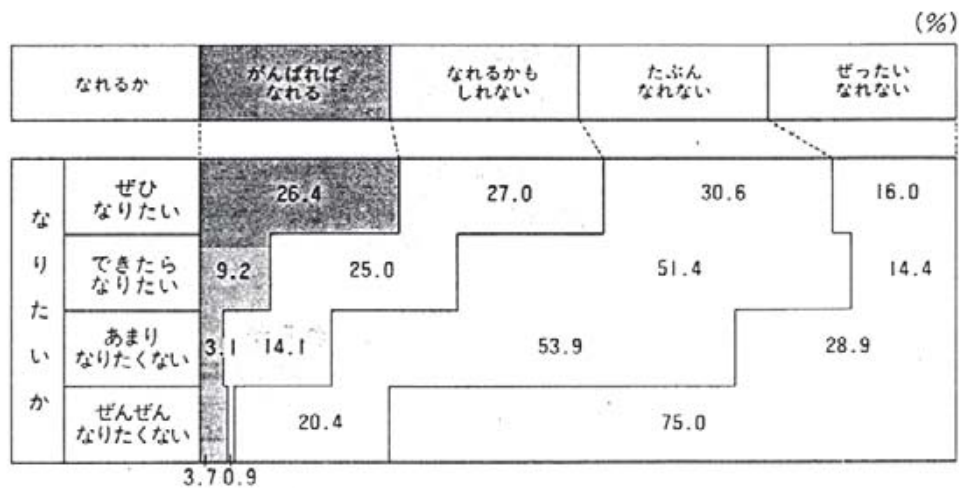


図23 その人のようになりたいか

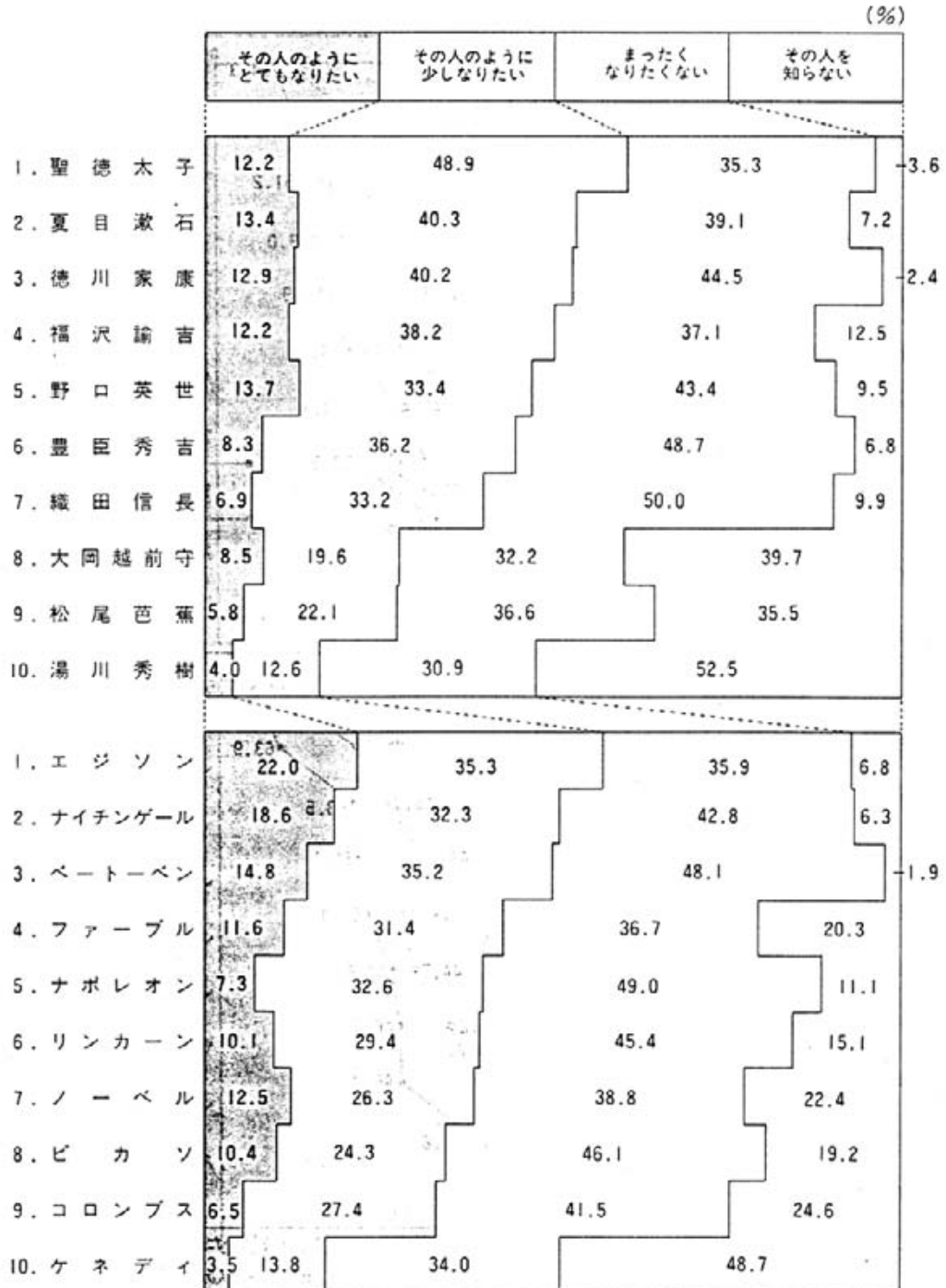
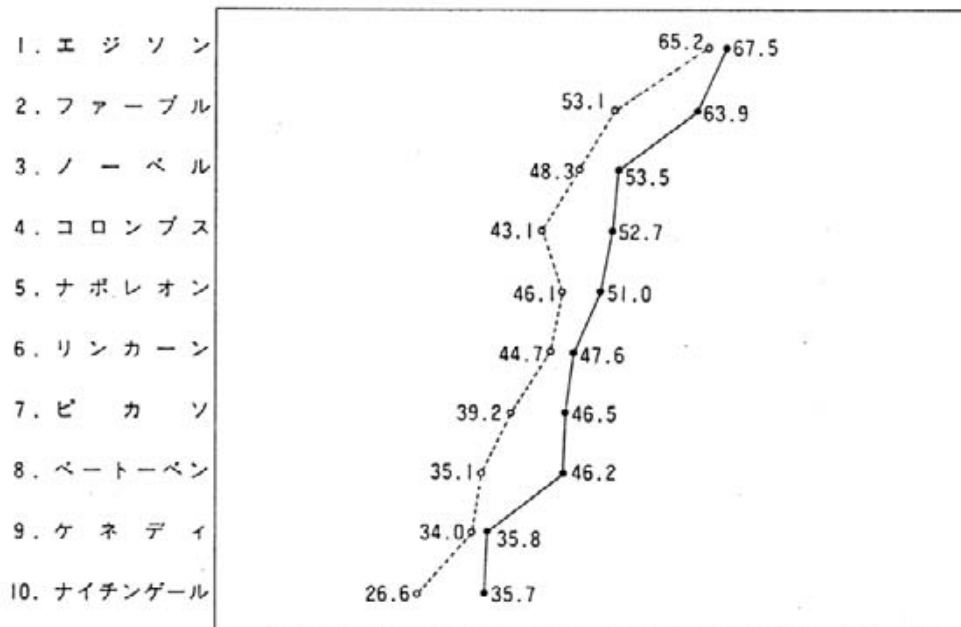
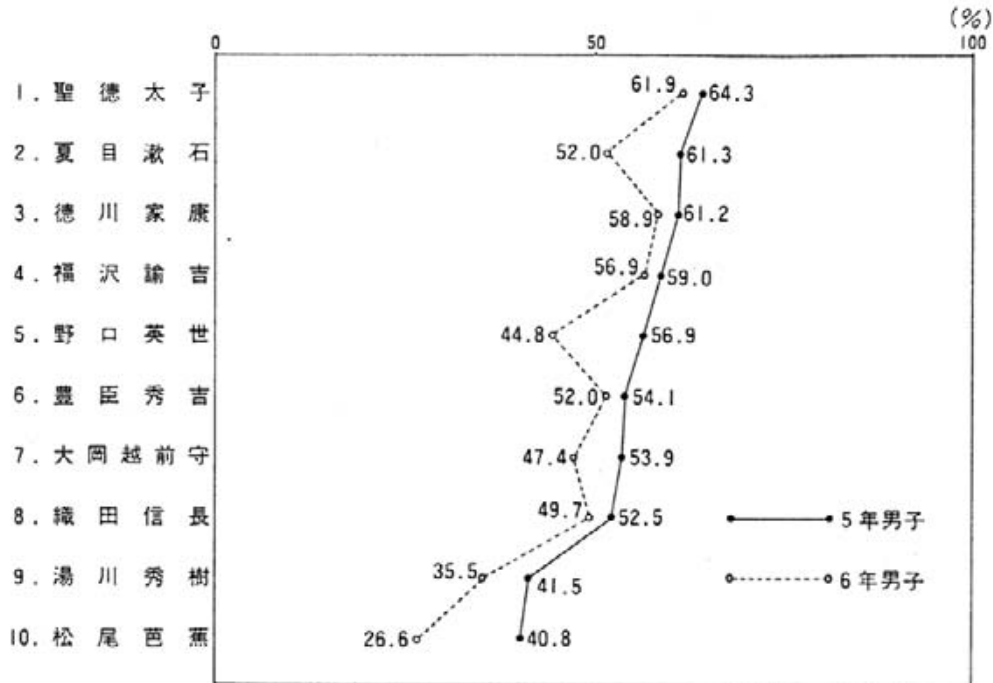


図24 その人のようになりたいか(男子)×学年



※数値は、下のスケールで、1を除いた2+3の割合(%)

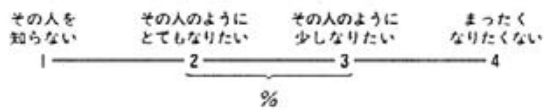
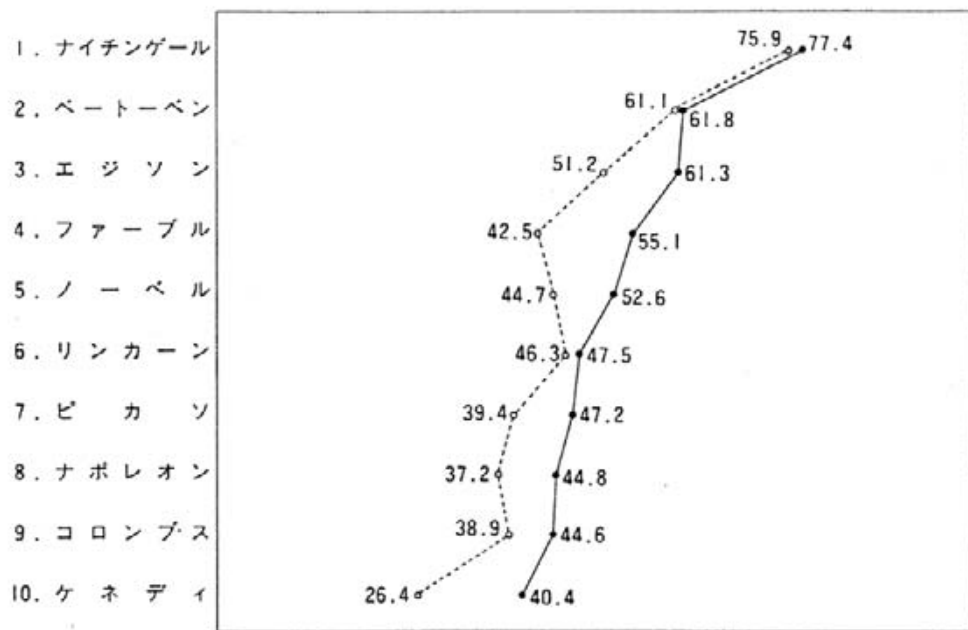
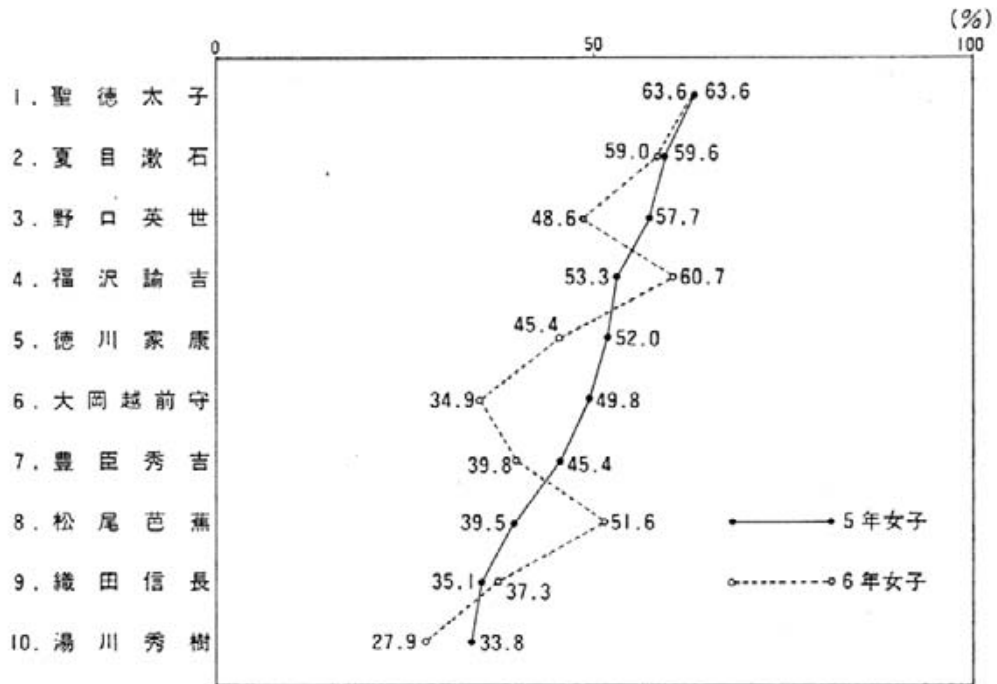


図25 その人のようになりたいか(女子)×学年



※数値は、下のスケールで、1を除いた2+3の割合(%)
 その人を知らない 1 ————— 2 ————— 3 ————— 4
 その人のように 2
 とてもなりたい
 その人のように 3
 少しなりたい
 まったく 4
 なりたくない
 %

自己評価とのかかわり

最後に、図20に示した結果をもとに「歴史に名前が残る人になりたい」という子どもたちが、どんな属性をもっているかを確認しておくことにしたい。

表10は、すでに第2章で見てきた歴史上の人物に対する知識量が、歴史に名前を残したいと願う度合いによってどう異なるかを調べようとするものである。結果は予想した通り、「なりたい」と願う度合いが強い者ほど多くの知識をもっている。

そして、次の表11では「なりたい」と願う子どもほど、歴史上の人物に対して好意的な評価をしていることがわかる。さらに、そうした子どもたちは歴史に名前が残るためには、

「がんばり」や「人からの評価」を重視し、決して「本やテレビに出る回数」のせいではないと思っている(表12)。

次に、図26には自己評価とのクロス集計の結果を掲げてある。それによると、「頭がいい」から「本を読むのが好き」までの5項目のいずれにおいても、肯定的な自己像を描く子どもほど「ぜひ・できたらなってみよう」という割合が高い。念のために、ここで用いた5項目の加算値によって、ほぼ三等分したグループごとの結果を図27と図28に掲げたが、「なりたい」と「なれる」の双方において、子どもたちの自己評価との高い相関が認められた。

表10 どのくらい知っているか×歴史上の人物になりたいか

(%)

	ぜひ なりたい	できたら なりたい	あまり なりたくない	ぜんぜん なりたくない
1. 水戸黄門	76.6	68.3	64.3	61.6
2. 徳川家康	75.6	69.2	63.1	47.9
3. 聖徳太子	70.0	64.6	54.8	42.6
4. 野口英世	65.4	59.7	55.8	40.0
5. 織田信長	65.0	56.6	49.5	35.2
6. 夏目漱石	62.8	56.8	46.5	35.9
7. 豊臣秀吉	65.2	54.6	47.0	32.4
8. 西郷隆盛	63.4	55.5	47.5	29.4
9. 福沢諭吉	60.9	52.6	49.2	32.8
10. 滝廉太郎	51.4	46.9	44.2	35.3
11. 伊藤博文	55.8	47.2	40.8	30.2
12. 板垣退助	43.9	40.7	38.1	25.6
13. 松尾芭蕉	38.8	30.9	29.1	21.1
14. 二宮尊徳	38.1	23.3	19.4	17.2
15. 江戸川乱歩	30.5	24.8	17.7	17.6
16. 大岡越前守	35.0	23.5	16.5	17.2
17. 芥川龍之介	20.0	13.8	10.2	11.7
18. 吉田茂	19.8	10.4	6.0	7.8
19. 湯川秀樹	15.4	10.2	6.2	7.0
20. 東条英機	10.9	6.9	3.5	5.6

名前もしたこと
よく知っている 1
名前もしたこと
だいたい知っている 2
名前だけは
知っている 3
名前もしたこと
知らない 4

%

○は最大値、～は最小値

表11 世の中をよくするのに役立ったか×歴史上の人物になりたいか

(%)

	ぜひ なりたい	できたら なりたい	あまり なりたくない	ぜんぜん なりたくない
1. 聖徳太子	86.7	89.2	81.2	74.7
2. 徳川家康	71.7	62.9	71.1	65.6
3. 野口英世	70.6	66.4	58.6	52.9
4. 福沢諭吉	73.9	64.4	60.1	48.8
5. 豊臣秀吉	65.9	63.8	59.7	53.7
6. 夏目漱石	58.7	54.8	48.8	46.0
7. 織田信長	57.1	55.4	51.0	46.6
8. 大岡越前守	46.7	39.3	32.7	28.0
9. 松尾芭蕉	24.6	24.8	20.7	15.7
10. 湯川秀樹	27.3	20.3	12.4	18.0

その人を知らない 1 ————— 2 世の中をとてもよくした ————— 3 世の中をかなりよくした ————— 4 世の中にあまり関係ない ————— 5 世の中をむしろ悪くした

%

○は最大値、～は最小値

表12 歴史に名前が残る条件×歴史上の人物になりたいか

(%)

	ぜひ なりたい	できたら なりたい	あまり なりたくない	ぜんぜん なりたくない
1. その人のがんばり	89.6	89.3	84.9	80.4
2. 人からの認められ方	86.3	85.8	81.6	74.6
3. 大きなことをしたかどうか	73.3	66.8	62.9	58.7
4. 運のよさ	36.6	27.0	26.0	34.1
5. 本やテレビに出る回数	24.2	20.4	19.1	27.1

それほど大切ではない 1 ————— 2 少しは大切 ————— 3 わりと大切 ————— 4 とても大切

%

○は最大値、～は最小値

図26 歴史上の人物になりたいか×自己評価

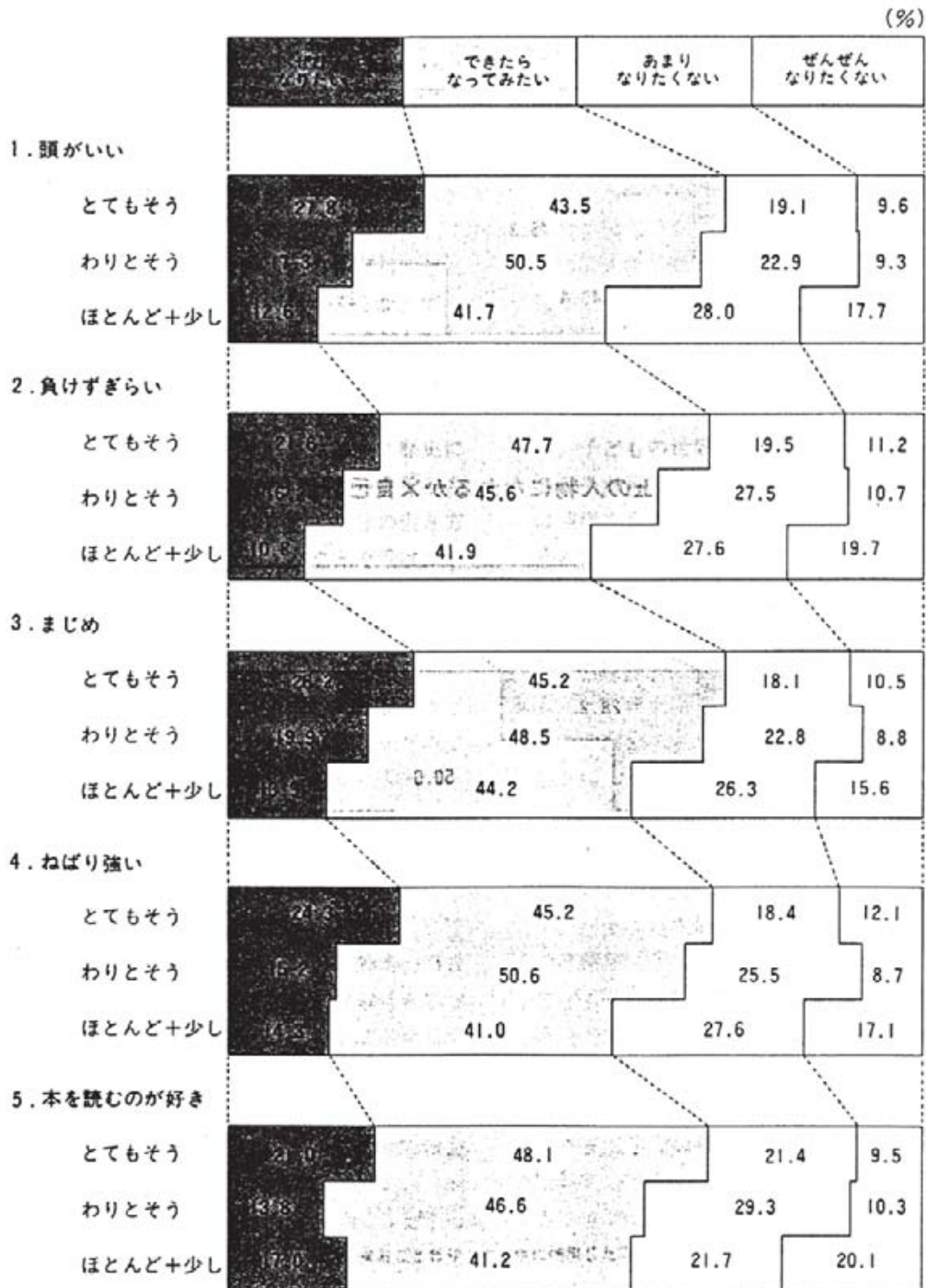


図27 歴史上の人物になりたいか×自己評価(加算値)

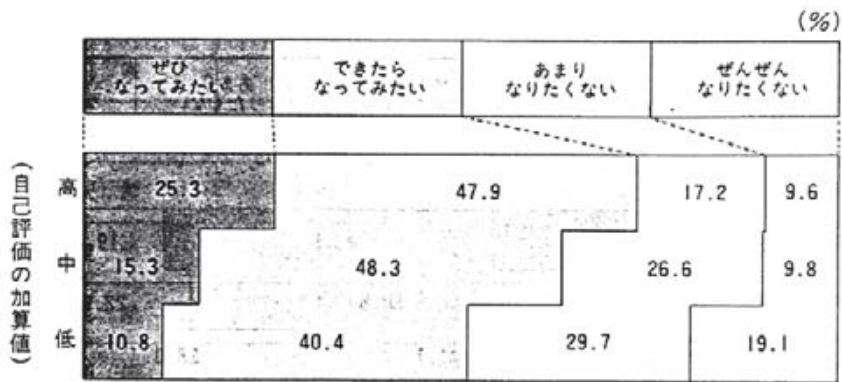
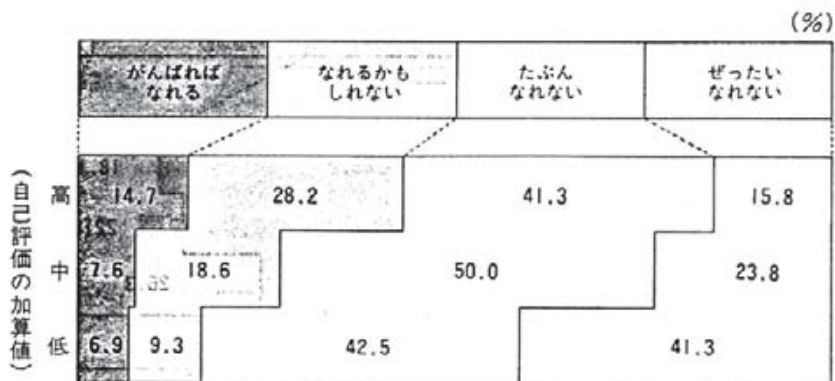


図28 歴史上の人物になれるか×自己評価(加算値)





まとめに代えて

以上、歴史上の人物が現代の子どもたちの生き方の上に及ぼす影響をいくつかの角度から追求してきた。

影響を及ぼしているか否かの判定基準をどこにおくかはとても難しい気がするが、データの全体から残る印象としては、子どもたちは歴史の確かな重みを感じていて、人物についての知識の精度もかなり高くなってきていることがあげられる。その割には、「歴史に名前が残る人になってみたい」という子どもが一定の割合にいるとはいえ、自分の生き方を変更するほどの強いインパクトを受けているようには見えない。断念率の高さがそれを

物語っている。

「その人のようにになりたい」の筆頭にあげられた聖徳太子やエジソンなどの人物像も、あるいは人々の想像力の所産にすぎないかもしれない。とすれば、具体的な事実をもとに、客観的な人物像に迫る方向での歴史学習は、あるいは、歴史上の人物を同一化の対象としていく作用とは逆の方向にあるのかもしれない。子どもの世界においても、あらゆる情報の入手が可能な現代において、歴史上の人物に憧憬を抱き、心の中のヒーローを獲得する、そんな余地がもっと残されていてもよいと思うのだからいかかであろうか。

※おことわり：本文中に使用した写真は本文・テーマとはいっさい関係ありません。